molten

For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」
私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに
世界に類のないボールと
スポーツエキップメント・メーカーとして
つねに完璧な製品づくりを目指しています。

日本リーグ唯一の公式試合球
全日本実業団連盟主催大会
唯一の公式試合球

H312 ヌエバ 国際公認球 検定球
縫い・人工皮革、3号球、ラテックスチューブ

H212 ヌエバ 国際公認球 検定球
縫い・人工皮革、2号球、ラテックスチューブ

www.molten.co.jp

株式会社 モルテン 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川五丁目5-7

普及と競技力向上

（財）日本ハンドボール協会理事（学生連盟）　**福地 賢介**

大学スポーツは、現在まで、大学教育の一環という枠の中での普及と競技力の向上をテーマとして、ハンドボールの大学関係者の先人が取り組み、それを今日まで継承してきております。現在では、10年前と比較し男女合わせ30大学内外の増加を見て、現在約330大学を数えております。

ここ数年は、女子の伸びが顕著であり、高校生の有望選手の各大学への進学率上昇で、それに伴い、地域格差の目だっていた競技力の均衡化も見られ始めております。

地区学連によっては、普及や現状維持の為に、混成チームのオープン参加を認めたり、色々と考えて、普及面でもそれなりの成果は見受けられます。

大学への進学状況を見ても、従来は関東、東海、関西地区を除き、比較的地元への進学志向が多かったものが、九州の選手が北海道、また、東北の選手が九州へといった事も見受けらます。それに伴い、各地区学連のレベルアップにつながり、そのことが東西インカレ、インカレ等の結果にも現れてきており、一回戦から予断を許さない組み合わせ増えて、競技力の向上も窺えます。

アジアと異なり、ヨーロッパ及び他の国々の大半は、地域に密着したスポーツクラブの中の大学生としてのスポーツであり、普及でも競技力向上でも、わが国とは異なった環境の中で行われております。

ロシアなどでは、普及としてのクラブの活動とトップアスリート育成の為の英才教育（例えば8才から18才までのハンドボール専門学校、元ホンダのクリチェンコも在学）が行われ、世界学生や他の国際大会に選抜されて出場しております。

久しく五輪への道も閉ざされて、また、近年は世界選手権大会へも出場出来ず、強化の為には、大学生世代の強化をと言われています。そして北京プロジェクトが採用され、当時、大学２年生の宮﨑大輔（日体大）、内田雄士（日本大）、その他の有望選手のスペインへのハンドボール留学がありました。その後の活躍は周知の通りで、それなりの成果が認められております。しかし、休学・留学が、その後の大学生活に影響を与えており、難しい問題もありました。

日本協会としては、強化指定選手制度、NTS、ジュニアアカデミー構想等で、競技力の向上が図られ、中学生—高校生—大学生の連携強化は、指定強化選手制度を採用しておりますが、大学では、進学してきた指定強化選手の上積みや、新しい選手の発掘・育成にも努める事と思っております。未だ、インカレ至上主義も窺え、トップランク大学の更なる意識改革と協力をと思っております。

世界学生選手権大会では、1996年のハンガリー大会でロシアに勝利した事が、選手の意識改革につながり、その後は、今一歩でメダルというところまで来ており、それなりの向上も見られます。学生界の競技力向上が日本リーグの刺激となり、大学生卒業後の受け入れチームの増加に繋がるように、また、OB・OGの学生界回帰の努力もと思っております。

各地区学連の努力でわずかながらも加盟大学が増加しており、今後も、弾力的な志向で、加盟の体育会系大学のみでなく、同好会までも参加できるオープン大会の設置などで、更なる普及にとも思っております。

今後も（財）日本ハンドボール協会と普及・強化・その他の面で密なる関係を保ち、斯界発展の為に努めていきたいと思っております。

第37回
全国中学校ハンドボール大会

【最終順位】

＜男子＞

優　勝　福井市明倫中学校
準優勝　名古屋市立汐路中学校
３　位　周南市立岐陽中学校
３　位　大阪体育大学附属中学校

＜女子＞

優　勝　岩国市立岩国中学校
準優勝　福井市光陽中学校
３　位　京田辺市立培良中学校
３　位　三郷市立北中学校

【優秀選手賞】

＜男子＞

岩永　龍哉（明倫中）
川島　悠太郎（明倫中）
安藤　祐介（明倫中）
池谷　翔太（汐路中）
服部　友部（汐路中）
藤末　峻嗣（岐陽中）
片桐　彰人（大体大附中）

＜女子＞

水落　萌香（岩国中）
松本　彩花（岩国中）
田村　美沙紀（岩国中）
堀川　真奈（光陽中）
坂本　優惟（光陽中）
笠原　有紗（培良中）
石井　優花（三郷北中）

総評　大会を振り返って

大会実行委員会事務局長　加納 壽宏

「ふりそそげ!! きらめく笑顔　北信越の大空に !!」をスローガンに、本年度の全国中学校ハンドボール大会は、福井県（福井市、あわら市、永平寺町の３会場）で８月17日～20日の４日間にわたり開催されました。福井県で開催されるのは、平成４年に引き続き２回目となりました。

中学生にとって最大の目標であるこの大会に、男女20チームずつが熱い激戦を繰り広げてくれました。本県からも、春中ハンド優勝の明倫中学校（男子）、同じく準優勝の光陽中学校（女子）、開催地枠出場の安居中学校（男女）の計４チームが出場し、地元開催をより一層盛り上げてくれました。特に、明倫中学校と光陽中学校には大きな期待が寄せられていました。

各試合を振り返ると、２点差のゲームが男子は８試合、女子は６試合ありました。この結果からも接戦が多く、ブロック間の力の差が徐々に無くなってきたと言えるのではないでしょうか。また、各チームとも持ち味を十分に生かしたことが、この結果につながったと言えるでしょう。しかし、決勝に残った明倫中学校と汐路中学校（愛知）は予選から安定した実力を発揮し、他のチームを寄せ付けない強さがありました。女子も同様に光陽中学校と岩国中学校（山口）は多彩な攻めと強いディフェンスで他の追随を許しませんでした。最終日に男女で地元チームが勝ち残ったことは大きな喜びでもあり、関係者はもちろん保護者や学校関係者等の応援にも一層熱が入りました。

男子の決勝戦は、一進一退の攻防戦で手に汗握る好ゲームになり、前半を同点で折り返しました。後半にはいると汐路が５点差を付けたところで、流れが傾いたかに思えましたが、汐路の退場者が出たところを皮切りに明倫の反撃が始まり、同点に追いつきました。このゲームは最後の最後まで、どちらが勝つかわからない展開でしたが、明倫が２点差を付けてうれしい初優勝を飾りました。両チームともスピードとテクニックを備えたすばらしいチームで、観客を魅了した試合でした。また、両キーパーもファインセーブを見せ、より引き締まった試合になりました。

女子の決勝も男子同様に白熱した好ゲームになりました。岩国中は高いプレスディフェンスで光陽の攻撃を、対する光陽は高さとフットワークを生かした６－０ディフェンスで岩国中学校の攻撃を阻もうとしました。両チームとも、速攻とポスト、サイドなど幅広い攻撃で着実に点を重ねましたが、前半は光陽中学校が２点のリードで折り返しました。後半に入り、すぐさま岩国中学校が追いつきその後は一進一退の攻防が続きましたが、光陽中学校が岩国中学校のディフェンスを攻めあぐねる間に、得点を重ねた岩国がうれしい初優勝を飾りました。両校の優勝に心からお祝い申し上げます。

最後になりましたが、この大会を運営するにあたって大会関係者の方々、生徒役員の皆さん、そして多くの方にご協力・ご支援を頂いたことを感謝したいと思います。無事大会を終えた今、振り返ってみますと、本当に多くの方に支えられてこの大会を運営することが出来ました。ありがとうございました。

今後もますます中学校のハンドボールが発展することを祈って、私の総評とさせて頂きます。

男子優勝：福井市明倫中学校

明倫中学校監督　立山 泰伸

優勝が決まった瞬間、頭が真っ白になり、熱いものがこみ上げてきました。この子たちと共に過ごしてきた長い時間が走馬燈のように駆けめぐり、子どもたちの歓喜する姿が涙でよく見えませんでした。

春の全国大会では、優勝という最高の結果を納め、次の日から子どもを含め、私たちを取り巻く環境はよい意味でも悪い意味でも一変しました。今思うと、子どもたちの心に気のゆるみが生じたのかもしれません。相次ぐ怪我により、なかなかベストメンバーがそろわない日々が続きました。その間、いろいろな強豪チームとゲームをさせていただきましたが、明倫らしいハンドができず、チームの雰囲気もあまりよくありませんでした。ようやくベストメンバーがそろった夏の県大会では、何とか優勝したものの、春のチーム状態からはほど遠く、北信越大会では決勝で負けてしまいました。

北信越の敗戦から全中まで10日。どうこのチームを立て直すか考えましたが、技術的な修正よりも、1日かけてミーティングをしたり、子どもたちに練習メニューを考えさせたりするなど、子どもたちのモチベーションやチームとしてのまとまりをどう高めていくかということに専念しました。

明倫の子どもたちは一人一人の能力が大変高く、一人で得点できる選手がたくさんいます。でも、それでは、チームは勝てない。個人個人の能力の点をつなげていくことで、絆という1本の太い線にしていこう、と臨んだ全国大会でした。

地元開催という最大のアドバンテージを受け、明倫中学校はのびのびプレーさせていただき、春中同様、1戦1戦チームの力は確かなものになっていきました。そして、迎えた決勝戦。準決勝の汐路の戦いを見て、かなり苦しい戦いになることは予想しておりましたが、子どもたちは最大5点差がついてもあきらめず、ワンプレーワンプレー自分のやるべきことを精一杯がんばってくれました。その結果、地元の大応援団にも後押しされ、見事大逆転勝利を収めることができました。

日頃から子どもたちには「強い部活にならなくてもいい、良い部活になりなさい。」と言い聞かせています。子どもたちは学校生活や学習などにも手を抜かず、あくまでも学校教育の中の一つである部活動として取り組んできました。また、登録選手だけではなく部員全員の力で勝つんだということも子どもたちの中に浸透していきました。今大会も、登録選手15名以外の20名が本当によく自分の役割を果たしてくれ、35人全員で勝ち取った優勝だと思います。この全員ハンドが創部4年目の明倫中学校の最大の武器であり、これからの本校ハンド部の伝統となってくれることを願っています。

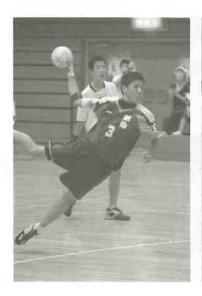
最後になりましたが、地元開催にあたり、大会実行委員会の先生方、強化にお力を貸して下さった北陸高校の志々場先生、羽水高校の岩元先生、誠にありがとうございました。そして、何よりも子どもたちを最後まで支えてくださった保護者の方、地域の方には言葉では言い表せないくらいお世話になり、深く感謝しております。このように今回の明倫中学校の春夏連覇は、自分たちの力だけで成し遂げたものではなく、たくさんの人に支えられての快挙だと思っております。誠にありがとうございました。

明倫中学校　安藤 祐介

二冠を達成して

地元開催の全国大会で、決勝戦終了のブザーが鳴るとともに嬉し涙を流してみんなと抱き合い、あらためて二冠を達成したんだと実感した。

春の優勝からは、ケガ人が続出したり、チームがまとまらないこともあった。しかし、この大会ではチームが一丸となって戦うことができた。

印象に残っているのは、準々決勝と決勝。準々決勝の東久

2点とも　写真提供：スポーツイベント社

留米西戦、前半の立ち上がりは、速攻やディフェンスで自分たちの力がだせ、点差を広げることができた。しかし半分ぐらいからサイド攻撃を許し点差を縮められてしまった。後半に入ってからもディフェンスが機能せず、点の取り合いになっていった。結局 30 点取られてしまった。試合終了後「勝ちは勝ちだがディフェンスが駄目、しかし今日は今日、明日に気持ちを切り替えよう」と先生とコーチは言ってくれた。それで僕は気持を切り替えることが出来た。

そしていよいよ決勝の舞台にあがってこられた。相手は汐路中学。春の全国大会では勝ったが練習試合では一度も勝つことが出来なかった相手。「ここまできたから絶対勝とう」という気持ちで戦った。前半は、相手のペースでなかなか自分たちのペースをつかめなかった。そして後半になると自分たちのミスから最大５点差がついてタイムアウトを取り、冷静になって、そこから自分たちのペースにもっていけ逆転に成功した。そこからは地元の声援もあり優勝を手にすることが出来た。

全国大会で優勝するのは、とても嬉しかった。これも先生、コーチ、先輩、保護者の方々、地元の方々、チームのみんなのおかげだと思う。このチームで練習出来て本当によかったと思う。これからもいろんな人に感謝していろいろなことをしていきたいと思う。

女子優勝：岩国市立岩国中学校

岩国中学校女子ハンドボール部顧問　林　孝志

第 37 回全国中学校ハンドボール大会におきまして念願の初優勝を遂げることができ、とても嬉しく思っています。

一昨年、香川全中において、２回戦で東久留米西中に２点差で敗れ、昨年は、県内の選手権大会決勝において、福島全中で東久留米西中と大接戦を演じた岐陽中にわずか１点差で敗れました。３年生は、このような先輩たちの後ろ姿を見て、私たちの代で必ず全国制覇を成し遂げようと日々の厳しい練習に取り組んできました。また、県内外のチームや高校生との練習試合を積む中で、技術のみならず精神面で大きく飛躍したことがこのような結果につながったと思います。

このチームの特徴はスピードとスタミナで、攻撃的なディフェンスからの速攻や視野外からのカットインが持ち味です。しかし、準決勝の三郷北中との対戦では、相手の粘りとプレッシャーからミスが続出しました。タイムアウトで気持ちを切り替えてからは本来の試合展開となりましたが、この試合がよいきっかけとなりました。決勝戦では「勇気と希望」を合言葉に、岩中らしい最高のパフォーマンスを見てもらおうと、一致団結して試合に臨むことができました。

決勝は優勝候補の光陽中、この対戦をずっと楽しみにしてきました。前半は、プレスをかけてもサイドシュートに苦しめられ、セットオフェンスでも厚い壁に覆われ、突破できないまま２点のリードを許しました。しかし、生徒の顔は明るくやる気満々で、まだまだいけるぞと感じました。後半５分で追いつき、そこからは１点を争う緊迫したゲーム展開となりました。小柄ではあるが力強いキャプテン福永のポストプレーをきっかけにラスト５分、ようやく抜け出すことができ優勝を手にすることができました。

最後になりましたが、本大会で運営にあたられました大会関係者の皆さま並びに熱い応援してくれた岐陽中の皆さん、保護者や地域の皆さまに心よりお礼申し上げます。そして、選手諸君、本当に有り難う。

岩国中学校女子ハンドボール部主将　福永彩香

私たちはこの夏、一生の宝を手にすることができました。それは「全国制覇」という栄光です。決勝戦、残り 10 秒のカウントダウンが耳に届き、同時に頭の中が真っ白になったのを今でも強く覚えています。

2点とも　写真提供：スポーツイベント社

私は一度も全国という大きな舞台に立ったことが無く、期待と不安な気持ちでいっぱいでした。私たちは1回戦シードで、2、3回戦とも体が自然に動いて、全国の舞台に立つ喜びを心から感じることができました。

しかし準決勝は、「勝たなければ……」というプレッシャーに押され、本来の岩中らしいプレーがあまり出せずに、反省の残る試合となってしまいました。

ついに決勝戦です。相手は地元福井県の光陽中です。コートに入ると、迫力のある応援に鳥肌が立ち、驚かされましたが、不思議なくらい試合を楽しめている自分がいました。

前半、相手の高い身長を生かしたディフェンスを破ることができず、2点リードされた形で折り返しました。そして後半4分、同点に追いつくと、一進一退の攻防が続きます。残り6分からの4連続得点で、夢の全国制覇を成し遂げることができました。あの時、全員で抱き合い、涙を流して喜んだことは一生忘れません。

そして、ここまで導いてくださった林先生、倉益先生をはじめ、応援してくださった先生方や先輩方など、多くの方々への感謝の気持ちでいっぱいです。また優勝できたのは、いつも心の支えになってくれた両親のおかげだと実感しています。全国制覇は、岩中ハンド部23名全員がいたからこそできたのだと思います。私は、このメンバーで戦えたことを嬉しく思い、大好きなハンドボールで最高の結果が残せ、とても幸せ者だと思います。

私は、この夏に得た自信と栄光を胸に、次の目標へ進んでいきたいと思います。

戦　評

【男子】

▼準決勝

明倫（福井） 26（13－10、13－10）20 岐陽（山口）

北信越ブロック第2位、福井市明倫中学校と中国ブロック第1位、周南市立岐陽中学校の一戦。明倫のスローオフ。ともに好キーパーを擁するチームであり、豊富なテクニックで攻撃する両者の決勝進出を賭けた戦い。

前半岐陽は、変則的な3－2－1ディフェンスを用い、攻撃でははじめから流れの中からのWポストを張った。対する明倫は6－0ディフェンスで対抗し、積極的に1対1を仕掛けた。岐陽は⑧藤末の1対1を中心にポストを絡めたオフェンスを展開し点を重ねていった。一方明倫は、速攻を主体とし、こちらも1対1を仕掛けていった。一進一退の戦いが続き、このまま点の取り合いになった。前半は両チームキーパー岐陽①宮本、明倫①岩永の好セーブが連発し、10対13の明倫リードで折り返した。

後半明倫は、岐陽の守りの速いディフェンスなかなか点を取れない。岐陽は前半に引き続きWポストで展開した。中盤明倫は、ポスト③榮にボールが落ちだし、点を重ねていった。点差が開かないまま明倫リードで終盤を迎えたが、ここで明倫らしい速攻が繰り返され20対26で明倫の勝利となった。敗れた岐陽も攻守のバランスの取れたすばらしいチームであった。ここでの敗退は残念に思える。

汐路（愛知） 33（22－3、11－13）16 大阪体大附（大阪）

東海ブロック第1代表、名古屋市立汐路中学校と近畿ブロック第2代表、大阪体育大学附属中学校との決勝を賭けた一戦。

前半汐路中のスローオフで試合開始。開始直後汐路中エース⑮服部のロングシュートが決まった。汐路中の流れは止まらずに汐路中①鈴木のナイスセーブと堅いディフェンスからの速攻が決まり、前半15分、14連続得点を取り、14対0と大きく大体大附属中を突き放した。その後も汐路中ペースで試合が流れ22対3と折り返した。

後半、大体大附属中②片桐のロングシュートが決まり始め一進一退の攻防が続いた。後半17分、汐路中がタイムアウトを要求し、メンバーをオールチェンジ。そこから大体大附属中の猛攻が始まり、18分から試合終了まで6連続得点を取った。だが、大体大附属中は汐路中の高さのあるディフェンスを攻め切る事ができずに33対16で汐路中が勝利した。

▼決勝

明倫（福井） 26（14－14、12－10）24 汐路（愛知）

男子決勝戦は、春夏二冠を狙う北信越ブロック第2代表福井市明倫中学校と、東海ブロック第1代表名古屋市立汐路中学校との優勝を賭けた一戦。両者ともここまで圧倒的な攻撃力で勝ちあがってきたため、大量得点が予想された試合であった。明倫中は牽制ディフェンスからの豊富なテクニックとスピードハンドボールを武器に、対する汐路中も長身を揃える高いディフェンスが牽制を入れながらの堅い守りで、全員のボール回しからの高いシュート力と、スピードハンドボールを武器としたチームである。

汐路中スローオフで始まったこの試合、汐路中が先制点、2点目と連取した。明倫中もポスト③榮にボールを集め、ポスト勝負がはまり2連取、その後両者得点を重ねていき、互角の勝負。明倫はこの試合6－0ディフェンス、対する汐路は得意の牽制ディフェンス。両チーム明倫⑥川島、汐路⑮服部のエースを中心に得点していき、一進一退の戦いであった。残り1分を切り、

互いにタイムアウト後に得点し14対14の同点で折り返した。

後半立ち上がりは汐路中の牽制ディフェンスがはまり、4連続得点もあり5点差まで差を広げる。しかし後半11分過ぎの汐路中の退場を機に、明倫中は5－1ディフェンスに変更し、これが功を奏し汐路中のオフェンスを防ぎ2度の4連続得点など一気に逆転、リードする。後半明倫中⑧田中のゲームメイクも冴え渡り、明倫に勢いをもたらした。最後の最後までどう転ぶかわからぬ展開の試合を制したのは26対24で明倫中であった。これで春夏2冠達成である。試合を通して両キーパー明倫中①岩永、汐路中①鈴木のスーパーセーブが連発して、両エース、両ポストが活躍した決勝にふさわしい大変すばらしいゲームであった。

【女子】

▼準決勝

光陽（福井） 22（10－9、12－7）16 培良（京都）

地元の大応援団をバックに優勝を狙う光陽と、ここまで圧倒的な強さで勝ち上がってきた培良との準決勝。④林のシュートで先制した光陽であったが、培良も③石崎のシュートで同点とした。その後、両チームとも点の取り合いが続き、一進一退の攻防となった。前半20分すぎ、決まれば2点差に引き離される7ｍＴの場面で光陽はGK①中川がファインセーブ、これで勢いにのった光陽は③坂本の2連取で10対9とリードして前半を折り返した。

後半立ち上がりファールを誘われ7ｍＴのピンチの光陽であったが、ここもGK①中川の好守で凌いだ。堅い守りからペースを握った光陽は後半5分からの10分間怒濤の5連続得点をあげる。対する培良はエース②笠原の強打で反撃を試みるも、光陽の高いDFを崩すことができなかった。悲願の初優勝に向け、選手・ベンチ・応援席が一体となった光陽の強さが際だった試合となった。

岩国（山口） 26（13－10、13－10）20 三郷北（埼玉）

前半の序盤はどちらもミスを連発し、開始5分にようやく岩国中が先制した。その後はしばらく点の取り合いが続いたが、岩国中のタイムアウトを機に、岩国中が速攻やカットインからのシュートをたて続けに決め、点差が広がった。対する三郷北中は打点の高いジャンプシュートや速攻で得点しようとするも、岩国中ゴールキーパー①水落の好セーブでなかなか点差を縮められない。たまらず三郷北中はタイムアウトをとると、点が決まり始め点の取り合いになった。そうして13対10と岩国中リードで前半を折り返した。

後半は開始早々に岩国中③松本の豪快なジャンプシュートで2点を連取した。しかしその後岩国中が1人退場をだしてから流れが変わった。三郷北中キャプテン②石井が7ｍスローをことごとく決めるなどして、ついに同点に追いついた。だがその後すぐ岩国中が意地の3連続得点で点差を広げにかかり、たまらず三郷北中はタイムアウトをとる。それでも岩国中の勢いは止まらず、最終的に26対20で岩国中が勝利を収めた。

▼決勝

岩国（山口） 25（11－13、14－8）21 光陽（福井）

決勝戦は春中準優勝、北信越ブロック第1代表、福井市光陽中学校と、ここまで他者を寄付けなかった中国ブロック第1代表、岩国市立岩国中学校との優勝を賭けた対戦となった。

前半、光陽中のスローオフで始まったこの試合、岩国中は3－3ディフェンスからの速攻を武器に攻め、前半8分⑩田村の速攻から岩国中がリードした。光陽中は前半10分⑤川上のサイドシュートからの4連続得点で勢いにのり、逆転。前半は13対11で光陽中のリードで折り返した。

後半4分、岩国中⑩田村のサイドシュートで同点に追いつくと、その後一進一退の攻防が終盤まで続いた。残り6分同点の場面で、岩国中はキャプテン②福永のポストシュートが決まるとその勢いは止まらず、次々に得点を重ねた。対する光陽中も①中川のファインセーブが続いたが、最後まで流れを変えることができなかった。最終的に25対21で岩国中が念願の全国優勝を果たした。

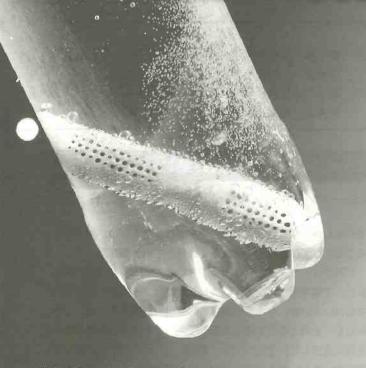
ドクター・水素水 ――― 特殊セラミックTスティック

簡易型水素発生「生」水器（水素発生ミネラルスティック）

豊富な水素が 水を変える！

フレンディアはJADMA（日本通信販売協会）の正会員です。

JADMA 社団法人日本通信販売協会会員

健康は毎日の飲料水から…

※本製品は改良のため予告なく仕様・デザインを変更する場合があります。

500mlのお水にドクター・水素水スティック１本を投入。
約120分後、水温21度における容存水素量0.48ppm。（当社測定値）

日本医学交流協会医療団
（ＮＰＯ認証 東京都）

当商品は認定を受けています。
http://www.drp.ne.jp/で認定確認できます。

特許公開番号：2004-41949
韓国特許登録：529006号
米国特許番号：7189330

原材料／金属マグネシウム、天然石
サイズ／18×122mm

価格／1箱3本入り 13,440円（税込み）

水の入ったペットボトルなどの容器にスティックを入れるだけ。
2リットルの水道水にこれ1本！
しかも**6ヶ月と長持ち**です。
1日2リットル作ったとして、
たったの24円と経済的。

株式会社フレンディア
〒150-0041 東京都渋谷区神南1-9-7 丸栄ビル6F
TEL：03-5728-3360 FAX：03-5728-3363
フリーダイヤル 0120-372-132（みんなに いーみず）

株式会社フレンディアのウェブサイトを併せてご覧ください。

http://www.friendear.co.jp

第 21 回 全国小学生 ハンドボール大会

第 21 回全国小学生ハンドボール大会は、平成 20 年 8 月 1 日（金）～ 3 日（日）、全国各地から、男子 29 チーム、女子 25 チームが集い、京都府の京田辺市田辺中央体育館、同志社大学京田辺キャンパス体育館，京都府立田辺高等学校体育館にて開催されました。本大会は、全国の少年少女にハンドボール競技の歓びを経験する機会を広く提供し、競技を通じて少年少女相互の交流と友情を深めるとともに、体力の増強と健全で豊かな心の育成を図ることをねらいとして実施しており、連日熱戦が繰り広げられ、男子は：安居ブルーサンダースポーツ少年団（福井県）が、女子は：仏生寺スポーツ少年団（富山県）がそれぞれ優勝いたしました。

【最終順位】

男子　優　勝：安居ブルーサンダースポーツ少年団（福井県）
　　　準優勝：窪スポーツ少年団ハンドボール部（富山県）
　　　第 3 位：日岡ハンドボールスポーツ少年団（大分県）
　　　第 4 位：平針南小学校（愛知県）

女子　優　勝：仏生寺スポーツ少年団（富山県）
　　　準優勝：平針南小学校（愛知県）
　　　第 3 位：当尾小学校（熊本県）
　　　第 4 位：塩山ハンドボールスポーツ少年団（山梨県）

男子優勝：安居ブルーサンダースポーツ少年団（福井県）

安居ブルーサンダーハンドボールスポーツ少年団監督　**松山 定裕**

平成 20 年度第 21 回全国小学生ハンドボール大会において、初優勝することが出来ました。このような結果を残すことが出来たのも、地区の皆様、学校関係の皆様、卒団生の皆様、そしていつも強力なバックアップをしていただいた保護者の皆様をはじめ、数多くの方々の暖かいご支援ご協力があったからです。心より感謝申し上げます。本当に有難うございました。

昨年のレギュラー３人を中心とした新チームが出来たのが３月。積極的に県外へ出て練習試合をしました。遠征に行くたび、子供達が上手くなっていくのが目に見えました。子供達の努力の結果、全国大会出場を決めることが出来ました。今年は 8 年ぶりの「アベック出場」ということもあり、監督・コーチ・保護者とも力が入りました。昨年男子は全国 4 位。今年はそれ以上の成績を目標にして、いつも以上に遠征に行ったり、また OB との厳しい練習もしました。暑く辛い練習に、子供達は疲労や怪我に悩まされ、万全でないまま全国大会が始まりました。しかし、辛く厳しい練習があったからこそ、仲間を信じ、小柄なチームながら強豪の九州勢にも臆することなく戦い、試合をするごとに、子供達は大きく逞しく成長していきました。

安居ブルーサンダースポーツ少年団、結成 13 年目夏、チームとして積み重ねた全てが結集したものと、子供達の勝利に対する強い思いが、今大会の結果として現れた優勝でした。これからも、そのときの気持ちを忘れず、ハンドボールを通じて心身共に成長していきたいです。最後に、今大会の運営にあたり御尽力いただいた大会関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

女子優勝：仏生寺スポーツ少年団（富山県）

仏生寺スポーツ少年団監督　**西　裕之**

仏生寺スポーツ少年団はこれまで６度の準優勝経験はあるものの、優勝には届かず、今回７度目の挑戦で、初の全国制覇を成し遂げることができました。

学校は、富山県氷見市の山間部にあり、全校児童が 40 名の小規模校です。女子児童のほとんどがハンドボール部に所属しています。スターティングメンバーは 4 年生から 6 年生までの３学年で構成され、まさに全員で勝ち取った全国制覇に、格別の思いがあります。

全国大会では、大会初日から大きな山場を迎えました。埼玉県代表の三郷ハンドボールクラブは、能力の高い選手を抱えた力のあるチームでした。前半は守り合いの展開になり、相手のダブルポストに対応しながら、よく守ってくれました。後半になり、相手のフリースローが決まり出し、一転して攻め合いの展開になりました。キャプテンの檜木を中心に、6人のコートプレーヤー全員が攻められることが今年のチームのよさであり、この展開でも全員が攻めの意識をもって戦いました。そして、接戦の末、3点差で勝利することができました。

今、振り返ってみると、この試合が今大会の契機となり、選手に大きな自信を与えてくれたのだと感じています。接戦を制したことで、「もしかしたら、いけるかもしれない。」という気持ちが生まれ、後の2日間はその気持ちが過信にならないように、常に緊張感をもつように言い聞かせながら戦いました。

準々決勝の大分県代表明野西ハンドボールクラブは速攻型のチーム。準決勝の熊本県代表当尾小学校は大型の選手が多く、パワーのあるチーム。どちらの試合も接戦でした。しかし、三郷クラブに勝った自信が、いい意味で選手の気持ちをプラスに働かせ、「絶対に負けない。」という強い気持ちをもたせたのだと思います。

優勝の瞬間、選手の目から大きな涙が溢れました。「負けて泣くより、勝って泣け！」というチームの合言葉が達成された、何とも言えない瞬間でした。わずか40人の学校の、17人の選手の偉業達成を、本当に誇りに思います。今後はこの結果におごることなく、さらに心技体を磨き、人として成長できるチームにしていきたいと思います。

戦　評

【男子】

▼3位決定戦

日岡ｽﾎﾟｰﾂ少年団　27（12－5、15－5）10　平針南小学校

前半立ち上がり、日岡スポ少は1分過ぎに7番・内田が先制をあげると3分までに3点を連取、優位に試合を進める。平針南小も5分過ぎにようやく1点を返すが、以後も日岡スポ少の連続得点を止めることができず、12対5と日岡スポーツ少年団が大きくリードを奪って折り返す。

後半立ち上がり2分、平針南小2番・永井の得点で反撃を開始するかに見えたが、4分過ぎから日岡スポ少に6点を連取され点差が大きくついた。日岡スポ少は7番内田を中心に全員が得点を重ね、27対10という大差で勝利、3位を獲得した。

▼決勝

安居ﾌﾞﾙｰｻﾝﾀﾞｰｽ　18（9－8、9－8）16　窪ｽﾎﾟｰﾂ少年団

決勝戦にふさわしい一進一退の攻防となった。前半3分過ぎ、安居4番・平本が先制。その15秒後に窪スポ少5番・安平がすぐに返してたがいに交互に点を取り合うような展開で1点以上の点差がつかないまま9対8と安居の1点リードで前半を終了。

後半に入っても一進一退の攻防は変わらなかったが、4分過ぎに安居が14点目を入れて初めて3点のリードを奪う。しかし、ここから窪スポ少が反撃、5分から8分30秒までに4点を連取、逆に1点のリードを奪う。その後再び一進一退となってが、終盤、10分過ぎから3連続得点をあげた安居ブルーサンダースが粘る窪スポーツ少年団を降り切り、18対16で優勝を飾った。

【女子】

▼3位決定戦

当尾小学校　13（6－6、7－3）9　塩山スポーツ少年団

先制したのは塩山で、1分過ぎ9番・日原、3分過ぎには3番・遠藤の得点で2対0とリードする。当尾も3分40秒、2番・竹原の得点で反撃、以後一進一退ながら少しずつ追い上げ、6対6の同点で前半を折り返す。

後半も5分過ぎまで9対9と一進一退の展開だったが、そこから当尾が一気に抜け出し、3番・遠藤、2番・竹原、11番・粟崎など得点を重ね、13対9で勝利、3位を決めた。

▼決勝戦

仏生寺ｽﾎﾟｰﾂ少年団　16（8－5、8－5）10　平針南小学校

前半立ち上がり、平針南小が7番・関、2番服部の連続得点でリードを奪う。仏生寺もすぐに反撃、5番・寺山、6番・大居の得点で2対2の同点とする。その後9分過ぎに4対3と逆転に成功した仏生寺が終始優位に展開、8対5と3点のリードで折り返した。

後半立ち上がりも仏生寺ペースで、着々と得点を重ね、7分過ぎには13対7と大きくリードを広げた。その後、平原南小学校も粘りを見せるが、点差を詰めることはできず、16対10で仏生寺スポーツ少年団が優勝を飾った。

※大会の全成績は「スコアールーム」をご参照ください。

第13回男子ジャパンオープンハンドボールトーナメント

三重ホンダクラブが優勝

■最終順位
優　勝：三重ホンダクラブ（三重県）
準優勝：FOG（千葉県）
3　位：氷見クラブ（富山県）
4　位：ホンダ熊本（熊本県）

第13回ジャパンオープントーナメント（男子）の大会を振り返り

富山県ハンドボール協会事務局長　山本 幹雄

第13回ジャパンオープントーナメント（男子）の大会が無事終了しましたことは、たいへん喜ばしく思っております。過去この大会は、国体開催県での国体のリハーサル大会として開催されてきました。

しかし、昨年7月16日新潟県中越沖地震の影響により、来年「トキめき新潟国体」を控える新潟県柏崎市において地震被害が大変大きく、大会予定会場はじめ柏崎市の復興の見込みが付かないということで急遽北信越協会で協議し、経費負担をそれぞれ協力しながら開催するということで、富山県富山市での開催となりました。

この大会に向け、準備・打合せを行ってきましたが、準備期間が短かく、またリハーサル大会ではないので、少ない経費で大会運営を行わねばならず、参加チームに満足のいく大会にできるかどうか、それが心配でした。しかし、日本協会ならびに新潟県協会・柏崎市のご指導のもと大会を開催することが出来ました。

さて、参加チームは5月ゴールデンウィーク明けの九州ブロックを皮切りにそれぞれ各ブロックより届きました。県内としては5月の予選で、例年上位の氷見クラブ、向陵クラブが準決勝でそれぞれ負けてしまい、決勝では、きときとクラブが優勝し、早々と開催地代表権を獲得しました。

そして6月の北信越予選では、氷見クラブが優勝し、代表権を取りました。県内からは、2チームの参加となりました。

8月8日（金）いよいよ各チーム、審判員そして日本協会役員の方々を迎える日がきました。諸会議・開会式を無事終え、一段落した感じでした。

9日（土）からの試合では、大会第1試合目に地元きときとクラブが、前回優勝のホンダ熊本を相手に健闘しましたが残念ながら負けてしまいました。その他、1回戦から好ゲームが繰り広げられました。中でも、準優勝のFOGは愛知教員と7mTCの大接戦でした。2回戦・準々決勝の熱戦を勝ち抜きベスト4には、三重ホンダクラブ・FOG・ホンダ熊本そして地元氷見クラブが残りました。氷見クラブは準決勝で、FOGに負けてしまいましたが、最終日の3位決定戦では、ホンダ熊本に接戦で勝ち、見事3位となり地元関係者として大変喜ばしく、県内社会人チームの励みと目標になったことと思います。

決勝戦は、三重ホンダクラブとFOGの試合となりました。三重ホンダクラブは、元日本代表の橋本選手がゴールを守り、元日本リーグを戦ってきた精鋭の選手たちが、体格を生かしたプレー、切れのあるプレーを繰り広げ、スピードのあるFOGを寄せ付けず前半からの大量リードを守り初優勝となりました。

今大会では、準備不足等で参加チーム、審判員そして日本協会役員の方々にはご迷惑をおかけしたこともあるかと思います。なお、大会期間中オフィシャルとして、協力いただいた新潟大学の皆さんのおかげで、無事大会を終了することができありがとうございました。

最後になりますが、新潟県柏崎市の復興と来年「トキめき新潟国体」のご成功を祈念いたします。

優勝チームのコメント

三重ホンダクラブ監督　橋本 行弘

８月８日～ 12 日に富山県で行われた『第 13 回ジャパンオープントーナメント大会』男子の部に出場し優勝する事が出来ました。

当初の予定では新潟県上越市にて男女同時開催とお聞きしていましたが、2007 年に発生した『新潟中越沖地震』の影響を受け、急遽場所を変更し富山県富山市を中心として大会を開催して頂くにあたり、多くの皆さんのご苦労とご協力に深く感謝致します。

さて我々三重ホンダクラブは実業団のホンダを母体とした OB チームです。勿論過去には日本リーグで活躍したり、全日本代表の経験者もいて名前だけは超一流？の選手もいますが、OB になってからはなかなか体を動かすタイミングがなく、１回戦、２回戦と勝ち上がっていくにつれて、相手と戦う前に自分自身と戦っている選手もいて、とてもタフな４日間を過ごす事が出来ました。

その為にウォーミングアップの時間は極力短くし、各々が任された時間の中で集中した準備をする事に徹したり、ゲームでは現代ハンドボールの象徴になっているアップテンポな攻防を繰り返すのではなく、スローペースでの攻撃回数を落とした確率ゲームに持ち込めるようなハンドボールスタイルを最後まで続けました。その姿は、最近のハンドボールスタイルを見慣れている方からすると物足りなさを感じたのではないでしょうか？

結局のところ『経験』という財産で勝ったと言っても過言ではないでしょう。オフェンスではポイント毎に見せるタイミングやポジショニングはまだまだ健在ですし、ディフェンスでも先読みをした位置取りと GK との連携で打たせて止める事に成功しました。この事からもこの基本からなる経験こそが最大の武器になっていると感じましたし、現代ハンドボールが忘れかけているものでは？と感じました。

この後に続く大会でもこの絶妙な『プレーの味』をハンドボールを観てくださる人たちに共感して頂けるようなパフォーマンスをして行きたいと考えますので、応援宜しくお願い致します。

第13回女子ジャパンオープンハンドボールトーナメント

香川銀行T・Hが優勝

（2年連続2度目）

■最終順位

優勝	香川銀行T・H（香川）
2位	コスモスビッキーズ（大分）
3位	HC岡山（岡山）
4位	かながわガビアーノ（神奈川）

第13回ジャパンオープントーナメント（女子）の大会を振り返って

新潟県ハンドボール協会常務理事　小川　浩

今大会は、来年開催の「トキめき新潟国体」に向けての、国体リハーサルとしての大会でした。本来は男子の部が、柏崎市・刈羽村を中心に開催される予定でありましたが、昨年に起きた中越沖地震のため、メイン会場となる柏崎市総合体育館をはじめサブ会場のラピカ（刈羽村）も甚大な被害を受けました。実行委員会も、その多くが震災復興のために労力を割かれることとなり、昨年急遽、男子の部は富山県富山市にて行われることと決まりました。まずもって、日本協会、北信越協会、富山県協会に対しまして厚く御礼申し上げます。

女子の部におきましては、上越市のリージョンプラザ上越ならびに柿崎総合体育館の2会場におきまして、予定通り執り行うことができました。ただ、開催時期が猛暑と重なったことや、会場間の移動距離が長いことから、選手の皆様の健康状態を心配いたしましたが、選手の皆様には、悪条件をものともしない果敢な戦いぶりを見せていただきましたことに大変感謝申し上げます。

この大会を通して感じましたことは、選手の皆様方をはじめ、審判員・競技関係者の方々が、ハンドボール競技自体を楽しんでおられること、そして、競技を通じて他チームの選手や役員との再会や新しい出会いを通じて、様々な交流を楽しんでおられることでした。競技スポーツから生涯スポーツへという一般的な潮流の中で、本大会においてハンドボール競技でも着々とその流れが構築されていることが感じられました。これがさらにマスターズ大会へと大きく発展することを期待しております。

また、本大会ホスト役としまして実行委員会が心掛けましたのは、気持ちよい挨拶の言葉で、選手・役員・関係者の皆様をもてなそうということでした。しかし緊張感からうまくいかない場面がありましたが、逆に選手や役員の皆様からハツラツとした挨拶や優しい言葉がけを頂戴し、助けて頂きましたことに感動を受けております。これが来年度本国体への大きなステップアップに繋がればと期待しております。

本大会では、連覇を狙う「香川銀行TH」に対して、昨年2位「HC岡山」が女王復活をかけての大会出場でした。「香川銀行TH」は他のチームを寄せ付けない得点力とDF力で決勝へと勝ち進みました。一方、準決勝にて「HC岡山」は怪我による選手交代もあり敗退、「大分コスモスビッキーズ」が大健闘し決勝へコマを進めました。決勝では、「香川銀行TH」が積極的なDFから、スピード感あふれる速攻で次々と加点し、「大分コスモスビッキーズ」を大差で破り2連覇を成し遂げました。3位決定戦では、前半は互角な展開となるも、「HC岡山」が後半連続5得点でペースを握り、「かながわガビアーノ」を振りきりました。

本県ハンドボールの現状は、チーム数が極端に少なく、競技役員・補助員が不足する中で、ボランティアを募ってどうにか大会を乗り切ることが出来ました。会場内外の施設面や人員配置等で、何かと不便をおかけいたしまして申し訳なく思っております。来年度開催の国体に向けて皆様のご意見を生かしながら、来年の開催に向けて期待できるよう大会運営をして行く所存です。

改めて、日本協会・北信越協会関係者、競技役員、参加チームの皆様に感謝申し上げるとともに、来年の国体におきましてもご支援、ご協力のほどお願い申し上げます。また、「トキめき新潟国体」へのお越しを心よりお待ち申し上げております。

これを機に、トキめき新潟国体の副題「〜トキはなて君の力を 大空へ〜」のように、低迷する新潟県のハンドボールが発展し大きく羽ばたいていけるよう一丸となって邁進して参りたいと思います。

優勝チームのコメント

香川銀行主将　西舘 尚子

毎年優勝を目指してきたこの大会で、前回、念願の初優勝を収めることができ、今回は２連覇を賭けた大会となりました。今期私たちが掲げた目標は２つあり、その１つは“日本リーグ勢を倒す”ことでした。７月に開催された実業団選手権大会にて、広島メイプルレッヅとの対戦で接戦の末、勝利を収めることができ、大きな目標を達成することができました。そしてもう１つ掲げた目標“ジャパンオープン２連覇”に向けて『このまま波に乗って優勝する！』という気持ちと、『日本リーグ勢に勝っておいて、中途半端な試合は絶対にしてはいけない』というプレッシャーもある中で挑んだ大会でした。

私たちは、個人個人がそれほど能力があるわけでも、体格が良いわけでもありませんが、６人全員が連動する積極的かつ攻撃的なディフェンスから速攻に結び付けて得点するというスタイルで、対戦相手にかかわらず始めから最後まで自分たちのスタイルでやり通すことがモットーです。

今大会、どの試合も大差で勝つことができたのは、日頃の厳しい練習の成果もあると思いますが、チーム全員がそのことをしっかりやり抜こうという気持ちが強かったからだと思います。これからもさらに上を目指すため、いろんな意味でもっともっと強いチームに進化していけるよう日々頑張っていきます。

最後に、チーム結成当初からご尽力頂きました香川銀行、ハンドボール協会関係各位、チームの向上にご支援、ご協力を頂きました大勢の皆様に感謝申し上げます。

ジャパンオープンで審判を経験して（女子ペア）

野村　舞
（日本女子体育大学）

初めて審判をしたのは、大学在学中の秋の菅杯ミニミニカップを吹いた時。その時は、「自分が指導者になるためにはルールも理解する必要がある。そうするとその資格も必要だ。」と、そのくらいにしか思っていなかったのが本音です。

大学でコーチをする傍ら、時間が空けば高体連・大学リーグ・クラブの方など、様々なところで吹くようになりました。選手としてやっていた頃、自分自身で理解していたルールと、実際ルールブックに載っているルールとが違い、勘違いしていたところが多々ありました。ハンドボールは奥が深いと感じた瞬間でした。また同時に、吹いていく中でうまくいかなかったところ、ゲームを左右するようなジャッジを見極めること、ゲームをコントロールすること、様々な問題が目の前にありました。

去年の夏にレフェリーコースに行かないかと声がかかりました。要項を見ると、「若手の国際レフェリーを育成する」そんな言葉が目に入り、参加するのをためらったことを覚えています。これから自分が審判としてやっていくために、レフェリーコースで学ぶことが重要なのではないかと思い、参加しました。そこで、今のペアの佐藤晴香と出会いました。私達は年の差もあり初めのうちは打ち解けずにいました。それを繋いでくれたのが、二人で試合を吹くことでした。二人で反省などをするうちにお互いのことがよく分かり、お互いのハンドボール観も理解出来てきました。

レフェリーコースの前期・後期を無事修了・合格し、今回ジャパンオープン（女子）の審判をしました。初めての全国大会ということで、自分達が今の力でできる精一杯をやろう、そう佐藤と二人心に決め、1日目を迎えました。今までに感じたことのない緊張で、おかしくなるかと思った程でした。案の定、いつものレフェリングの半分も出せないまま、1日目が終わってしまいました。終わってから聞いた他の審判員の方々からの意見は厳しいものであり、自分達に足りなかったもの、これからしていかなければいけないことを、私達のことを想って言って下さいました。帰ってきて佐藤と二人でミーティングをした時に、もう一度自分達のやるべきこと、ゲームを一緒に作っていかなければいけないこと、自分達のペアらしい笛を吹くことを再確認し、次の日に臨みました。2日目は、1日目の反省を生かし、まだまだのところは多々ありましたが、その中でも自分達らしい笛は吹けていたのではないかと思いました。

今回のジャパンオープンの審判をして、これからやるべきことが様々見えてきました。すべて、この大会のコートの上に立たないと分らなかったことばかりです。この機会を与えて下さった方々、一緒に大会に参加した審判の方々、サポートして下さった大会役員の方々、大会に参加した選手・役員の方々、そして島田先生はじめ審判への道を示してくださった方々に感謝したいと思います。これから勉強をし、また大会に臨みたいと思います。

佐藤晴香
（帝京科学大学）

審判を始めたのは高校3年の夏です。現役を引退し、ハンドボールと関われなくなってしまうのは嫌だったので、何かしらの形でハンドと携わっていきたいと思って審判という道を選びました。

私の顧問の先生は東京都の審判長をされている浜田浩和先生の教え子だったという繋がりがありまして、不慣れながらも、練習試合や高校生の公式試合でレフェリングを学び、1年間経験を積みました。

私が大学1年の夏に浜田先生からレフェリーコースに行ってみてはどうかというお話しをいただき、行くことを決めました。前期は基本なジャッジや位置取りなど、試合数をこなしていく中で学んでいきました。その中で、越田先生をはじめ、たくさんの先生方にご指導していたただきました。以前よりもハンドボールを選手と一緒に楽しむという気持ちが高まり、自分が審判員であるという自覚も高めることが出来ました。

後期は大学の男子1部の試合を吹きに行きました。前期が終わってから、色々なところに研修させてもらいながら自分のスキルアップに励みました。大学生の試合を吹く機会がほとんどなかった私にとって、たくさんの壁がありましたが少しずつ乗り越えていくきっかけとなりました。ルールに対しての意識もより高まり、自分を大きく成長させてもらえた貴重な時間でした。そして合格をいただき、今回のジャパンオープンに審判員として参加することが出来ました。

初の全国で緊張や不安もありましたが自分の中でとても良い経験となりました。学生とは違うプレーがあり、プレー予測なども変わってくるので、とても勉強になりました。他の審判員さんにたくさんのお話をしていただいたり、島田先生をはじめ沢山の先生方にアドバイスを頂きました。

今回の経験で、位置取りや、ファールの見分けに対して少しずつ見えてくるようになってきたと思います。また、ペアとのアイコンタクトや合わせに対しても特に意識することができました。2人でジャッジを合わせるように、試合中にうまく修正できるくらいお互いを理解し合えるように頑張って行こうと思います。

今後は、選手に自分のハンドボール観を理解してもらえるようなジャッジをして選手と楽しめる試合つくりの出来るレフェリーを目指していきたいと思います。そのために、ハンドボールを自分がよく理解して、いろいろな試合を吹いたり見たりして、ジャッジングを磨いていこうと思います。

〝過去1割〟、〝現在8割〟、〝未来1割〟

元男子ナショナルチーム　西山　清

日本チームとしてのオリンピック出場は、男女共途絶えて数十年経っている。ただ、今回の最終予選を見て感じたことは、点差等としては賛否両論色々と議論はあるものの、私見的には〝相手を追い詰めながら今一歩のところで、オリンピックの切符を逃した〟というイメージが強い。技術面、スピード面等、質的内容一つひとつを見る限り決して負けてないし、悲観する事もなく次のステージにどうどうと邁進してほしいと、今回の寄稿に当って先ず全日本メンバーに伝えたい。今回の結果に対する要因として技術面、体力面、精神面それぞれ幾つかあるとは思うが、私自身の経験のなかから、〝試合に臨むに当っての気持ちの整理〟について以下述べさせていただきたい。

私自身現役時代感じていたが、試合を通し充実した精神状態でやり遂げる事を邪魔している一つの要因としては、選手一人ひとりにおける〝過去の経緯（体験）〟と〝未来のイメージ〟がそうさせるのではと私は思っている。

まず〝過去の経緯（体験）〟であるが、過去の相性もあるが滅多に勝ったことのない相手、もしくは下馬評が高いチームへの勝ちに対するマイナスのイメージがどうしても心の中で顔を持ち上げてくる。ＤＦが良い、すごいシューターがいる、ＧＫがうまい、といった相手の良い面（凄い面）ばかりを考え過ぎてしまい、何時かは追いつかれる、といった事を考えがちである。〝勝っているのに勝っている気がしない〟そんな気持ちの中で戦っていることを幾度も経験してきた。こうした思いは、プレーに対し思い切りが悪くなり、また慎重になり過ぎて、プレーが萎縮してしまう結果になってしまう。つまり、〝過去の経緯〟においての悪いイメージが知らず知らずの内に精神状態やプレースタイル（特に技術的）に影響を及ぼしてくる。結果精神的に追い込まれた状態の中で試合を戦っており、勝敗に関係なく、満足感を得る事は難しいと思う。

もう一つの要因としては現存しない〝未来のイメージ〟が〝過去の経緯〟と同様に心の中に顔を持ち上げてくる事もある。遠く（今回で言えば、北京オリンピック）を見てプレーすることは、目標、そして夢を持ち続けるという観点から一部必要であるし、正しい思いではあるが、一方で遠くを見過ぎると今の自分、今の仲間、今やるべき事が疎かにまでとは言わないが、精神的に集中できない状況になる場合がある。具体的には負けている試合では過度に不安となり、勝ちが決まった試合では雑なプレーやキチンとしたプレーをしなくなり、結果個人的にもチーム的にもリズム（全日本としての戦い方等）を崩してしまう事がある。つまり、自分のプレー（チーム内における役割）をしなくなるし、できなくなり、一大会を通してのチームのリズム（流れ）に悪影響を与えてしまう事になる。大会内においてそれを立て直す事は容易ではない。

適切ではないかもしれないが、禅系統で好んで使われている〝脚下照顧〟（きゃっかしょうこ）という言葉がある。その意味するところは色々と言われているが、私自身の解釈としては、遠くばかりを見過ぎていると足元がすくわれる、という解釈も一つであると考えている。つまり、目標や夢を見てばかりいると、また試合が終わった後の反響ばかり考え過ぎていると、今やるべき事、今考えないといけない事が見えなくなる、という事である。

私が監督時代（日新製鋼）こうした場面になった時の一つやり方としては、全て解決する事は無理ではあるが、課題（テーマ）を与えるようにしていた。例えば、〝失点を何点以内に抑えろ〟、といったプレッシャーを試合中であったとしても与える事で、チームのリズムを崩さないようにしていた。但し、過度のプレッシャーではなく、あくまでもリズムを保つためのプレッシャーを与えるものである。前述〝過去の経緯〟と〝未来のイメージ〟についてどちらかと言うと、マイナス面について述べたが、必ずしもマイナスだけではない。持ち続けなければならない〝過去の経緯〟と〝未来のイメージ〟もある。〝過去の経緯〟については勝つための相手のプレーデータ（長短）については、過去にしかないし、今まで自分（チーム含む）が頑張って来たという思いは個人だけでなく、チームとしての自信であり、自分やチームメイトに対する信頼関係にも繋がる。それは大きなチーム力であり、忘れてはならない。

また、人は生き物であり、日々味方も相手も成長していく事から、次の展開（戦術・戦略）をその都度取捨選択する必要がある。こうした場面の判断の基は〝過去〟にある、という事である。

一方、〝未来のイメージ〟としては、粘りあるプレー、勝ちに対する貪欲さを持ち続ける源は、目標や夢をつかみたい、という気持ちから来る事が大きいと私は思っており、こうした観点から〝未来のイメージ〟も必要であると考えている。

以上、私自身言いたい事は、如何に目先の試合に対しベストプレー、また良い精神状態で臨めるか、戦えるか（試合中も含め）である。言い方を変えれば、良い結果・成果を得る為には〝過去の経緯〟、〝未来のイメージ〟を個人として、チームとして如何に取捨選択できるか、ではないかと思っている。〝現在〟の為の〝過去の経緯〟、〝未来のイメージ〟であり、その為のミーティングであり、ウォーミングアップであると思っている。怪我をしない、試合開始と同時にトップスピードに持っていくなどの身体的なものが全てではなく、必要なデータ、目標を持って試合に臨めるかが、心身共に充実した気持ちで一試合、または一大会を通して持続できるかであり、全日本として全ての実力を出し切るポイントではないかと思っている。

繰り返しになるが、あくまでも今（〝現在〟）をどう戦うか、戦えるか、であり、過去と未来はその為に必要なインプットのデータとの思いであり、過度に持たず、取捨選択する事である。アウトプットができるのは、〝現在（一瞬一瞬）〟のみである事を述べさせていただいた。

～球界発展への期待～

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw（フリースロー）

63回目を迎えた国体。テーマは「チャレンジ！おおいた国体」。どの競技にも当てはまるが、挑戦なくて発展はない。そういった意味では、改めて発展、普及、振興、強化など多くの面で足許を見つめ直そうととらえてもいいのではないかと思った。

ハンドボール界にとっては今大会から新しい展開があった。成年の部に学生チーム単独出場が認められた。と言っても、学生単独は初めてではない。第１回には大学東西対抗があり、第２回では東西対抗に女子の部も設けられている。第３回には女子学生の部が組まれた記録がある。だから“復活”と言ったほうがいいのかもしれない。

その後、女子は第17回まで一般の部への単独出場が認められている。最後となった第17回大会には日体大が出場しているが、地元岡山に準々決勝で２点差で敗れている。

男女とも一般の部（現在の成年の部）での優勝はないが、男子では日体大ＯＢが２位と３位、女子では日体大４度、熊本商大が１度、ベスト４に入っている。

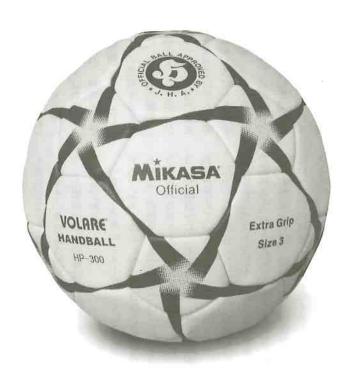
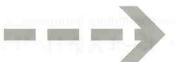
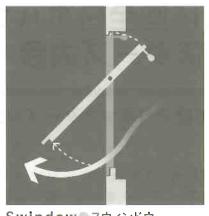
今大会にどれだけの参加があるか懸念されていたが、男子で東海大（神奈川）、女子では東女体大（東京）大教大（大阪）武庫川女大（兵庫）が各地区予選をクリアし、晴れ舞台にコマを進めた。

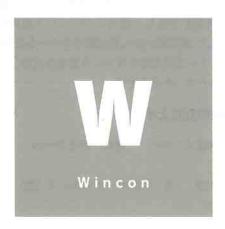
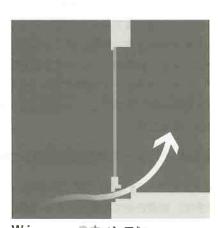
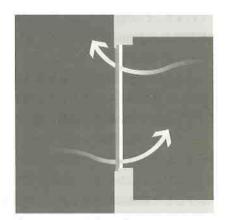
また、“準単独”として男子では高松大（香川）女子は東海大（神奈川）筑波大（茨城）が出場。筑波大がオムロン（熊本）メイプルレッズ（広島）の日本リーグ勢を破って準優勝に輝いた。学生達にとっては、ビッグな宝物になったに違いない。

さて、結果はともかく今回の62年ぶりの大学単独チーム復活は、今後どのように球界に影響を与えるだろうかに興味が沸く。すぐ多くの大学が予選に参加するとはいかないだろう。各地区ごとの学生リーグなどとのスケジュールの調整が必要だろう。

これまでも各県選抜にはエントリーしてきただけに、思いのほか「やる気」を出せば案外すんなりと道が開けるのではないだろうか。

言い換えれば学生界が国体をどうとらえるかにかかっているのではないか。実業団チームに挑み、波乱を呼ぶ戦いが出来れば、北京五輪予選で盛り上がったハンドボールへの注目度が、また高まる気もする。

いずれにしろ、若い力は多くの経験を積むことで予想以上の結果をもたらす。来年以降も積極的にチャレンジして、レベルアップにつないでもらいたい。

呼吸する建築

Swindow●スウィンドウ
わずかな風圧も捉えて自然に開閉し、室内外の温度差で効率の良い換気が行えるバランス式逆流防止窓。

Wincon●ウィンコン
内蔵の調節弁により、風の強弱に影響を受けにくく、定風量で換気が行えるヨコ型定風量換気スリット。

Cavcon●キャブコン
内蔵の調節弁により、強風時でも一定の風量で換気ができ、無風時でも内外の温度差による重力換気が行えるタテ型定風量換気スリット。

NAV WINDOW 21

「呼吸する建築」。それは人が呼吸をするように
建築が自然に空気を取り入れ、建物内部の空気を新鮮に保ち
不要なものを排出するシステムを持つことです。
自然換気システム＝NAV WINDOW 21は
これまでの建築の機械空調と共存し
建物を取り囲む風を読み、建物内に風の道を作りそれを状況の変化に
あわせて制御する画期的な換気システムです。

三協立山アルミ株式会社
東京本社／〒164-8503 東京都中野区中央1-38-1
住友中野坂上ビル20F〈環境商品部〉 TEL (03) 5348-0367
インターネットホームページ http://buildingsash.net/

平成 20 年度
第16回全日本ハンドボールマスターズ大会

順位決定型結果

＜男子＞		＜女子＞	
1位	WAKUNAGA	1位	風見鶏ファミリー
2位	NISSIN	2位	スズッキーズ
3位	オールドフェイス	3位	小松クラブ

第16回全日本マスターズハンドボール&第5回11人制大会を終えて

大会競技委員長　小山 哲央

平成 20 年 8 月 22 日（金）～ 24 日（日）、豊田市総合体育館（スカイホール）を中心に、第 16 回全日本マスターズハンドボール＆第 5 回 11 人制大会が開催されました。

全国各地から、69 チーム総勢 1000 名を越す規模へ成長し、大会 3 日間、「すべてを参加者の手作りで」を基本理念とし、準備から運営までをすべて参加者でできるよう準備を整え、大きな怪我も無く無事に終了することが出来ました。

本来は、大会の表舞台についての総評を記述すべきところですが、今回は特別に、≪実験的豊田大会と全日本マスターズハンドボールの方向性≫という副題とし、裏舞台について記述させて頂きます。

1．全日本マスターズの豊田市開催について

全日本マスターズの発祥の地「豊田市」に大会を戻し、3 年間（予定）定着させて開催することを決心するには、二つの大きな原因があります。

1）これまで何回か実施してきましたアンケートによりますと、参加回数の多いチームほど豊田市での恒常的な開催を熱望しています。その理由として計 8 回の豊田大会を通して、交通の利便性と at home な感じをあげています。何とかこの声に応えたかったのです。

2）大会も 16 回を迎え、回を重ねるうちに大会趣旨から徐々に離反し、ぶれが生じてきたように思われました。例えば、プログラムから大会趣旨の掲載が消えたことは、チャンピオンシップ大会とは異なる、マスターズハンドボールの生涯スポーツとしてのコンセプトが消滅しつつあるように思えました。そこで初心にかえり、3 年間かけて歪みやズレのないしっかりとした骨格に鍛え直したいという思いから、複数年開催に踏み切りました。

とは申しましても、6 年間も大会運営から離れているばかりか、規模が 2 倍に成長した大会を、どのように準備し運営するかは想像がつきませんでした。ただ乗切れる自信となったのは、豊田市にはスカイホール豊田を中心に 30 分圏内に 4 つの公立体育館が存在し、最大 7 つのコートを用意することができること、愛知県内から初出場の 6 チームを含め、男女合わせて 15 チームが出場するという豊富な人材、この二つのよりどころがあったからです。

2．実行委員会の立ち上げ

1）実行委員会構成メンバー　　男女　計 8 チーム

①交流型男子

a　HC 名古屋 ATF　　b　中京オールスターズ（初）

c　愛知コモンズ

②交流型女子

a　HC 名古屋中部ドリームズ　　b　ムラッキーズ（初）

c　チーム荒川　（初）

③　順位決定型

a　AZZURRO（アズーロ）　　b　Fenice（フェニーチェ）

2）実行委員会における共通認識事項

①会議は原則月 1 回とする。会議終了後は体育館で合同の練習会を開く。

②大会趣旨に則り「すべてを参加者の手作りで」を基本理念とする。

a：実行委員会の構成員は全て大会では参加者となる。よって大会参加の経費は自己負担とする。

b：a の考え方を逆の立場に立つと、全ての大会参加者は開会式をもって我々の実行委員会の仲間入りとなる

③手作りプログラム

大会準備の中で一番厄介となるのがプログラムの作成である。このプログラムも可能な限り手作りとする。カラー印刷となる表表紙と裏表紙は、大事をとって業者に発注してしまいましたが、原稿づくりを手始めに、紙の仕入れから製本までは実行委員の手で完成させました。総数なんと 1200 部で 1 冊当り約 100 円ででき上がりました。手間賃を入れるともっと何倍にもなったのでしょうが。

以上の 2 項目は月 1 回の会議を重ねるなかで決められま

したが、手作りプログラムの作成以外は、ほとんど第１回から始まって８回開催された豊田大会では実行されてきたものです。

3．会場責任者・コート責任者・ゲーム責任者制の採用

会場責任者は総責任者として須賀通夫さん（ATF）、３会場の責任者には森誠子さん(中部ドリームズ)、濱口尚人さん、小林正枝さん（ATFと中部ドリームズのマスターズ予備軍）、谷口明正さん（豊田市協会事務局長）の５名が専任で務めて下さいました。コート責任者及びゲーム責任者は参加全チームの協力によりその責を果たして頂きました。お蔭様で大会をスムーズに運営することができました。

4．補助役員について

これまで述べて参りましたように、自主的で独立した手作り大会をモットーに大会運営を考えて参りましたが、実は協力の申し出が多数ありました。これらの申し出に対しましては有難くお受けいたしました。

①岡崎城西高等学校女子ハンドボール部
②豊田市立高橋中学ハンドボール部
③豊田市立高岡中学ハンドボール部
④中京大学体育会ハンドボール部

上記４校の協力の申し出には、大会参加者一同、大変有難く感謝の気持ちで一杯だったと思います。心より御礼申し上げます。本当に助かりました。

5．来年度大会に向けて

1）このような形の大会は豊田市だからできるのであって、県外の地域での開催は不可能であるとお考えの方もおありと思います。確かに30分圏内に天然芝の球技場と、７つの室内ハンドボール場を所有する地域は極々限られてくると思います。しかし、大会開催に当って、開催地の実行委員会の大会準備に掛かる負担は規模が拡大すればするほど計り知れないものとなります。

この大きな負担を役割ごとに参加チームで分割し、分担した窓口を開くことができれば、開催地への負担はかなり軽減すると思います。２年間かけて皆様とともに検討して行きたいと考えております。

2）70歳以上の選手の参加料無料化

これまで日本のハンドボール界にどれほど貢献してきたか考え、少なくとも参加料は無料にすべきであると考えております。又良く目立つ短パンを贈呈し、その労を労うことも必要と思います。

6．感　謝

1993年第１回大会より、多くの方に支えられてこれまで発展することができました。関係各位に心より感謝申し上げます。又、今年も多くの企業から協賛して頂くことができました。本当に有難うございます。今年始めて（社）愛知県柔道整復師会から協賛を頂きました。３会場に多くの整復師が集結し、ボランティアとして惜しまずご協力を受け、３日間の大会で延べ300人以上の選手が治療を受けました。おかげさまで大きな傷害発生も１件のみで、この規模の大会では珍しいことだと思います。改めて感謝申し上げます。

7．11人制マスターズハンドボールの存在感

第５回11人制マスターズ大会は、７人制大会に先立ち８月22日（金）に豊田市運動公園球技場で開催されました。

男女６チームが天然芝という好条件の競技場のもと熱戦を展開し、決勝は初出場の神楽坂フェニックスがHC名古屋ATFを振り切り、大会を制しました。

この大会も昨年よりトーナメント制を採用し、やっと大会らしくなって参りました。第１回大会から連続出場の葵クラブ、LBCアルバトロス、ATF、中部ドリームズが楽しみながら努力してきた結果が、炙り出しの絵のような存在から「11人制復活」という明確な存在感を感じとったのは、私だけではないでしょう。また、会場の準備こそATFと中部ドリームズが中心になって行いましたが、後片付けはそれ以外のチームで行うなど参加者に大きな協力を頂きました。

マスターズ大会の趣旨に沿った真の「手作り大会」として、７人制大会に先んじて実践することができ、参加の皆さんに感謝いたします。今後も、東京柿木坂クラブや神楽坂フェニックスのように11人制のハンドボールは未経験であっても、７人制にない面白さを体験したいチームの参加を期待し、まとめといたします。

第35回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会

函館高専が初優勝

〈最終順位〉
優勝　函館高専
2位　北九州高専
3位　八代高専
3位　宇部高専

大会を振り返り

釧路工業高等専門学校ハンドボール部顧問　草刈 敏夫

第35回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会を大きな事故もなく終了する事が出来た。釧路での全国大会の開催は平成2年と平成12年、そして今回と3回目になる。ハンドボール競技が釧路で開催される事を知ったのは、昨年の5月のことであった。その話を聞いたときに、真っ先に頭に浮かんだのが、その頃建設が進んでいたハンドボールコートが2面取れる広さがある総合体育館（湿原の風アリーナ釧路）を会場にできるのではないかということであった。しかし、オープンが平成20年9月と聞き、前回と同様に釧路町総合体育館と釧路公立大学体育館を会場にすることで進めていくことになった。

昨年の11月から各協会への協力依頼が開始され、年が明けた今年の3月には学内準備委員会が組織されて本格的な準備が始まった。審判員および役員等への委嘱状の送付、パンフレットの作成、必要物品の発注管理等は、学生課学生支援係が中心となって行っていただいたが、釧路ではハンドボールの他に卓球・ソフトテニス・剣道の3競技が同時開催であったために、職員の方々は相当な仕事量となっていたと思われる。

8月22日に釧路町総合体育館にて公開練習が行われることから、前日の21日にハンドボール部員と競技担当教職員にて会場を設営した。ハンドボール部員が中心となって、ラインのマスキングとラインテープを貼る作業を行った。部員の中には初めてこの作業を行う学生が多く、いたるところでテープに段差が出来ており貼り直しが多くなったが、部員には良い経験になったと思われる。

会場が設営されると、開閉会式のリハーサルである。今回は簡単ではあるが、入場行進を取り入れた関係で、アナウンサーは同じ高専の学生が良いのではということになり、本校の情報工学科4年の女子学生にお願いした。マニュアルは出来ているものの、彼女がマニュアルを見るのは今日が初めてということもあり、色々と細かいところを修正しながらの進行となった。

22日の代表者会議では使用球の品番確認が出来ていなかったり、レセプション参加者の名札を作っていなかったために急遽ホテル側で作っていただいたりと細かなミスがあったものの、23日の開会式は思っていたよりもスムーズに流れて競技開始を迎えることができた。公立大学体育館にはアップする場所がないために必然的に外でのアップとなるので、雨が降らないことを祈っていたが、どうやらそちらも大丈夫そうであり一安心した。でも外気温は17度である。

競技はスムーズに進み、函館工業高等専門学校の初優勝で幕を閉じることができた。優勝杯が初めて北海道にわたることに、同じ北海道勢として胸が熱くなる思いがした。8年前を思い出しながらの準備と競技運営であったが、日本ハンドボール協会、北海道ハンドボール協会、釧路ハンドボール協会の各協会の皆様ならびに審判員の方々のご協力によって無事に終了することが出来ましたことに感謝致します。

そして何よりも熱いプレーを見せてくれた各高専の選手の方々に御礼を申し上げます。

優勝チームの声①　函館高専顧問　鳴海 雅哉

創部3年目の函館高専ハンドボール部には、コーチである長谷川軍司先生の存在が欠かせません。ここでは、長谷川先生のご紹介をしながら、一言申し上げたいと思います。

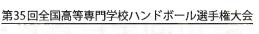
長谷川軍司先生は、函館大学付属有斗高等学校の体育科教諭として、長らくハンドボール部監督の任にありました。在任中には全国大会に何度も駒を進めるなど、輝かしい戦歴をお持ちです。定年によりご退職された後は、本校非常勤講師として勤務されています。

思い起こせば3年前、有志学生らによって愛好会が設立されました。そのときに学生たちが長谷川先生に頼み込み、なんとかコーチをお引き受けいただいたと聞いています。その後、先生は毎日のようにいらっしゃり、練習に多くの時間を費やされました。学生たちも先生に「勝利」で報いようと、必死でついてまいりました。休みなどありませんでした。

初年度は神戸での大会に出場し、あえなく全敗。2年目は高松大会でなんとか1勝できたものの、予選リーグ突破ならずという結果でした。3年目はなんとか決勝トーナメントに進出しようと意気込んでいましたが、予想以上に競り勝ち、いつの間にか優勝となっていました。これも日ごろの厳しい練習に耐えた学生の努力と、そしてなにより長谷川先生の巧みな采配のおかげでした。この場をお借りして、先生に心から御礼申し上げます。

最後に、さまざまな形でご支援くださった函館のハンドボール関係の皆さま、そして今大会の運営に携わった多くの皆さまに厚く御礼を申し上げます。

優勝チームの声②　函館高専主将　駒井 亮介

函館高専ハンドボール部は3年前に結成され、最初は全国大会に出場することだけを目標にしていました。しかし

今年、とうとう念願の金メダルを手にすることができました。ここまで来て振り返ると、厳しい練習だけではなく、さまざまな場面が思い出されます。予選リーグに僕が体調不良で出場できなかったときは「先輩は今年で最後の大会だからなんとしても決勝トーナメントまでチャンスを繋げよう」と後輩たちだけで予選リーグを勝ち抜いてくれましたし、決勝トーナメントでは釧路高専が同じ北海道のチームとして応援してくれました。八代高専との準決勝では、延長戦でも勝負がつかず、7mTCになり、1：2で負けている状況でも諦めず、結果的にチーム全員で逆転勝利を収めた時は嬉しくて涙が止まりませんでした。

この初優勝は、コーチとしてご指導してくださった長谷川軍司先生の存在がなくてはあり得ませんでした。軍司先生とは市内の大会で初めてお会いし、そこからご指導していただくことになりました。軍司先生は有斗高校で何度も全国大会に出場されていたので、技術面だけではなく、チームワークの大切さ、全国への気持ちの持ち方など、言葉で表わしきれないことを本当にたくさん教えていただきました。函館大学の松先生にも何度もご指導していただき、勝つということの大切さを学ばせて頂きました。

今大会にあたり、ご指導、応援してくださった方々とチームメイトに感謝の気持ちを述べて主将の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました！

戦　評

【準決勝】

北九州高専　22（8—10、14—10）20　宇部高専

宇部のスローオフで試合開始となり、宇部・堀山選手が先制点をあげる。宇部の堅いディフェンスに北九州はなかなか得点できず、その間に宇部はサイド攻撃を活かして得点を重ね、5点差までリードを広げる。北九州も徐々に森川選手、中村選手の高さをからめた攻撃が見られるようになり、13分過ぎから連続5得点をあげて1点差までつめよったが、10対8と宇部リードで前半を終了した。

後半に入り北九州の前田選手、中尾選手の得点により北九州が宇部に追いつく。その後は北九州の森川選手、中村選手の高さを活かした攻撃と宇部の堀選手、堀山選手の巧みな攻撃がぶつかり合う、一進一退の攻防が続き、高さに勝る北九州が2点差で勝利した。

函館高専　29（9—12、12—9）28　八代高専
（1－1延長3－3）（4　7mTC　3）

前半立ち上がりは、シュートミスが多く堅さの取れない函館高専に対して、八代高専はキャプテン山形選手、松本選手を中心とした落ち着いた試合運びで順調に得点を重ねる。函館は前半中盤まで一時7点差をつけられるが、徐々に本来のスピードを取り戻し、3点差まで追い上げて前半を終了する。

後半に入ると、八代は山形選手を中心とした力強い攻撃と強靭な守備、函館は持ち前のスピードと竹内選手の多彩なシュートを武器に一進一退の攻防を続ける。試合は21対20と八代高専1点有利で迎えた終了20秒前に函館・竹内選手の同点ゴールが決まり、延長戦に突入する。

白熱した延長戦も八代が終了1分前まで2点をリードしていが、そこから函館が怒涛の反撃で終了3秒前に小田原選手が同点ゴールを決め、大会規定により3名による7mTCでの決着となった。7mTCは両チーム1人ずつ失敗し、サドンデスまで突入するが、5人目で失敗した八代に対し、函館はしっかりゴールを決めて、函館勝利の決着となった。

【決勝】

函館高専　25（13－10、12－10）20　北九州高専

決勝戦は、北と南との戦いとなった。函館のスローオフにより試合が開始となり、函館のパスミスをついて北九州村上選手が先制点をあげるが、7分過ぎに、函館・駒井選手と高橋選手の活躍で連続4得点をあげて函館がリードする。その後北九州・森川選手、中村選手の高さを活かした攻撃に対する函館のディフェンスと北九州ディフェンスに対する函館・佐々木選手のサイド攻撃との攻防により一進一退を繰り返し、13対10と函館リードで前半を終了する。後半に入っても函館に勢いがあり、佐々木選手、竹内選手の活躍により着実に得点を重ねていった函館が勝利し初優勝を手にした。

第10回全日本ビーチハンドボール選手権大会

第10回全日本ビーチハンドボール選手権大会を振り返って

兵庫県ハンドボール協会ビーチハンドボール委員会委員長　大原 康昇

8月30（土）・31（日）に兵庫県・神戸市アジュール舞子で第10回全日本ビーチハンドボール選手権大会が開催されました。第3回大会も同場所で開催されましたが、その後一度もビーチハンドに本県協会は関わっておらず、7年前の多少の記憶と、本間先生（日本協会ビーチハンド専門委員）の指導を仰ぎながら大会を無事終えることができました。

準備にあたって

一昨年の年度当初、大会開催の要請があったが、前回の大会の後、同じ工法の他の人口砂浜で事故が遭ったため、改修工事（国土省の監督の下）と使用の規制がなされていたので、一度は断られていた。しかし、本間先生より再度の神戸（近畿地区）開催の強い要請があり、（財）神戸市緑化協会の協力を得て何とか会場が確保できた。会場設営にあたっては、本間、川口両先生の指導を仰ぎコート等を作ったが、夏場で砂浜海岸であるゆえ大変な作業だった。

運営にあたって

関東地区に多くのチームが集中しているので、他地区の参加も呼びかけたが、参加はしてもらえなかった。競技にあたっては、植村、仲田国際審判員の指導のもとに、審判講習・技術研修等が試合と平行しながら行われた。特に、今回初めて参加した兵庫の3チームには良い経験になったと思われる。今後も続けたいとも言っていた。

今後の課題

ビーチハンドは現在の若者に受け入れられる要素は十分にあると思う。12 × 27m コート、GK も含めメンバー4人、アクロバット的なピルエット、スカイシュートは2点。
また、審判のジェスチャーが良い。腕を大きく回し、1点か2点かを示すときは最高である。そしてボールは軟らかく子供にも馴染み易い。砂のコートに限らず、グランド・体育館に於いても手軽にできる。日本協会がもっとアピールすべきであると思う。競技自体を発展させるには、国、地方自治体にビーチスポーツを理解していただき、常設ゾーン（砂浜に）を設けていただきたい。今の所、容易に出来る試合場所がないこと、また、簡単にコート作りが出来ないところに問題があるように思う。本場に行くと公園の中にもビーチコートが設けられている地域もある。文化の違いもあるが我が国にも積極的に働きかけるべきであると思う。

最後に、この大会で優勝された FST（男子）・日体ウーマンイーグルスに心から賛辞を送ると共に、優勝メンバーの多くが第1回アジアビーチハンド大会（インドネシア・バリ）に参加し、活躍されることを期待しております。大会開催に関しましては、ご指導、ご協力いただいた日本協会を始め、兵庫県、神戸市の各団体に心からお礼を申し上げます。

■優勝チームの声（男子の部優勝）【FST】 ……………………………… 監督　草川和真

このたび優勝を収めることができ、大変嬉しく思っています。また同じ仲間の FSTO も準優勝することができ、喜びも倍増です。

私達 FST は東京都を拠点に活動しているハンドボールチームです。国体やジャパンオープン、東日本クラブ選手権などを目標としていますが、昨年よりビーチハンドボールにも力を入れ始め、千葉県南房総市富浦町にて練習させていただいております。

今年度は、特にピルエットシュート・ディフェンスシステムに重点をおいて練習を行ってきました。また、常に2点シュートを狙い、2点シュートを防ぐというビーチハンドボール独特のルールに即した戦術の徹底を図ってきました。

さらに、ピルエットシュートを習得するために、フイギュアスケート選手の講習を受けるといったユニークな練習も実施してきました。今大会においては、そのピルエットシュート習得の効果を発揮し大量得点を挙げられたことに満足して

いますが、逆に失点が多い試合があったことを反省しています。ピルエットシュートの普及に伴い、今後ますます攻撃力のあるチームが出てくると予想しています。今回の結果に慢心することなく、新たな戦術の開発、ピルエット・スカイシュートの精度アップ、そしてデイフェンスシステムの強化を図り、さらにレベルアップしていきたいと考えています。

また同時に、ビーチハンドボールという競技そのものの魅力や面白さの普及にも努めていきたいと思っています。

最後に個人的な話で恐縮ですが、大学時代をすごした神戸での大会で優勝できたことをとても感慨深く思っています。また、チームのメンバーには兵庫県出身者が多く、彼らも同じように感じたとのことでした。今回のようなすばらしい環境で試合ができたのは、関係者各位のご尽力の賜物だと深く感謝しております。皆様、本当にありがとうございました。

■優勝チームの声（女子の部優勝）【日体ウーマンイーグルス】 ………………… 笹田 裕子

今年度初めてビーチハンドボールのチームを発足しました。チーム名は『日体ウーマンイーグルス』名前通り、日体大卒業生が中心となりハンドボール経験者が集いビーチハンドボールに挑戦しました。

初めての試合は、６月末に行われた富浦カップでした。試合前にルールを学び、生まれて初めてビーチハンドボールに触り、よく解らないまま、とにかくやってみた。３試合を終え結果は８位でした。とても悔しい思いをしました。

２回目の試合は、学生大会で、他学生を交えて楽しく試合をしました。

３回目の試合が全日本ビーチハンドボール選手権大会でした。ここで、初めて自分達だけで作戦を練り、助っ人を加えて試合に臨みました。作戦は当たり、経験を生かし見事に勝ち進みました。昨年の優勝チームや富浦カップの優勝チームとの試合は白熱しました。シーソーゲームにもなり、ハラハラドキドキの試合展開でやっている間、本当に楽しかったです。チームが一体となり勝利にこだわり、皆で勝ちを取りに行きました。結果、優勝。本当に嬉しかったです。

何度となく練習しに海へ行ったり、皆で集まって練習が出来ない分、個々にトレーニングに励んだりした結果が出た瞬間でした。

今回、この試合を通し、ビーチハンドボールの楽しさを体感することが出来ました。ビーチハンドボールは、普通のハンドボールとまた違った楽しさがありました。海を前に開放的な気分の中、転がっても痛くない砂の上で走り回る。内容的にはハードではあるが､気分が凄く良いように思いました。

全体を通し、ビーチハンドボールが本当に楽しい競技だと知ることが出来ました。この機会を作ってくれた全ての人に感謝したいと思います。

戦評

▼男子決勝

FST　2（16－13、18－6）0　FSTO

互いによく知ったグループ同士の決勝となり､前半「FSTO」が先手を取り、５分までリードしたが、GK シュートやピルエットシュートで「FST」が逆転、残り２分互いにピルエットシュートを連発しながらも「FST」が３点差で先取する。後半は「FST」ペースでゲームが進み、⑤茂幾のピルエットシュートの活躍とＧＫ①元村の好守もあり、大差で後半も取り、２：０で「FST」が初優勝した。

▼女子決勝

日体ｳｰﾏﾝｲｰｸﾞﾙｽ　2（15－6、14－11）0　あぶらおおめ

３勝同士での対決となり、「日体ウーマンイーグルス」GK①木澤の好守もあり、③丸田、⑥沼田らの着実なシュートで15－6で先取、後半は開始から互いに得点を重ね、シーソーゲームも､残り１分で「あぶらおおめ」のファールを誘い、6mT をきっちりゴールインし、２：０で「日体ウーマンイーグルス」が初優勝した。

平成20年3月15日・16日の両日、駒澤大学において、第6回ハンドボールコーチング研究会が開催されました。本研究会は、全国の指導者が自身の経験や・知見を持ち寄り、実際の現場で有用な情報を共有する機会として位置付けられています。
研究会の発表内容については、本誌で連載報告していただく運びとなりました。
今月は山本忠志さん（兵庫教育大学）の発表内容「ハンドボール競技のタレント育成に関する一考察」を報告させていただきます。
なお、他の発表については次号以降で報告を連載いたします。
(財)日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人福島高等学校）

ハンドボール競技のタレント育成に関する一考察

―成熟度を考慮した一貫指導システムの構築―

山本忠志、柳本大地（兵庫教育大学）

キーワード：ハンドボール、タレント、一貫指導、成熟度

Ⅰ．研究目的

現在、JOC（日本オリンピック協会）は、各スポーツ競技において、それぞれのスポーツ競技の強化を図る上で一貫指導システムの確立を提唱している。

ところで、日本のハンドボール競技の現状は、IHF（International Handball Federation）が紹介しているハンドボールの世界ランキングによると、ドイツ、ロシア、デンマークなどのヨーロッパ勢が上位を占めており、日本は下位に位置している。また、アジアにおいても勝てない状況である。これらの現状を踏まえて、これからの日本のハンドボール競技の強化に向けて、いかにタレントを発掘・育成していくかは重大な問題である。そのための一貫指導プログラムの検討を行うとともに、特に発育発達が著しいジュニア期（小学校高学年から中学校期）の指導について、考えていく必要性が感じられる。そこで、本研究では個人の成熟度を考慮したトレーニングについて検討していくものである。

Ⅱ．研究方法

1．ハンドボール競技の一貫指導の現状について
2．ジュニア期のハンドボール指導の現状について
3．ジュニア期のスポーツ指導について
4．成熟度の判定に関して

以上の項目について文献検索により実施した。

Ⅲ．結果と考察

1．ハンドボール競技の現状について

・日本と世界の比較

日本のハンドボール競技における指導体制としては、ジュニア期は、各学校で実施されており、その指導者の多くは学校の教員である。また、各学校単位で実施されているため、その方針は教員によってそれぞれ異なる。この体制は中・高・大学も同様である。また、学校卒業後は、進学先の学校にハンドボール部が存在しないなどの環境の理由も関係し、必ずしも中・高・大とハンドボールを続けられる環境が整ってはいない。このような現状を打開するために、日本ハンドボール協会は、若年層の運動能力の高い意欲のあるプレーヤーを早期に発掘し、将来、世界で活躍出来る可能性を持ったクリエイティブな日本代表プレーヤーの育成と、統一された指導方法を示し、指導者レベル向上を図ることを目的としたNTS（National Training System）を2000年に発足している。

一方、世界の強豪国では、地域スポーツクラブとして実施されており、その指導は、専門性のあるジュニアコーチに任されている。また、代表選手の選抜において、日本の現状としては、学校各位での優秀者を選抜しているが、世界の強豪国の代表選抜は、優秀な若年層を発掘し、統一した指導理念に基づいて育成している。

2．日本におけるハンドボール指導について

NTSはジュニア期であるU-12の指導プログラムとして以下の主題を挙げている。

1．広がりと奥行きの中でのプレイ
2．特徴がはっきりしたコート中央でのプレイ
3．ボールなし・ありの1対1のプレイ
4．学習体験の創造
5．個別化
6．テンポあるプレイ
7．攻撃のタイプを作り出す
8．成功体験の創造
9．高い身体的負荷の保証
10．行為の重圧の創造

このような方針の下に練習プログラムが実施されている。

・世界におけるジュニア期の指導について

一方、ドイツハンドボール協会では、一般的に運動競技的養成のジュニア部門において、一貫した指導環境が必要であるとされている。また、今日のジュニア期の子どもたちは、これま

での子どもたちと比較すれば、日常生活においてわずかな運動経験しか得ていない。さらに、伝統的な基礎スポーツ種目として挙げられる器械体操や陸上競技は、現在では学校でもあまり実施されず、第２のスポーツ種目としても、十分な規模で行われていないため、運動可動性が子どもたちに欠けてしまっており、間違った協同能力が身についてしまっていると述べている。それらを克服し、かつ複雑な運動（ハンドボール独特の技術）を早く習得するために、有効な必要条件を設定し、様々な年齢段階のために、以下の分野に重点が置かれて指導がなされている。

①一般的及びハンドボール特有の調整力（コーディネーション能力）
②一般的及びハンドボール特有の速さ（行為速度）
③基礎持久力
④一般的及びハンドボール特有の体力
⑤可動性

３．ジュニア期のスポーツ指導について

長期にわたる競技者育成プログラムとしては、国際的にはLong Term Athlete Development（以下LTAD）と定義され、多くの研究と実践が報告されている。そんな中、Balyiは、スポーツ競技種目を早期完成型（早熟型）と長期完成型（晩熟型）に分類し、それぞれについて発達段階に応じたモデルを開発している。それによると球技は晩熟型に分類され、競技の導入から引退にいたるまで後述の６段階のステージを経て育成すべきであるとしている。

Stage1．ファンダメンタルの段階（６～９歳）
Stage2．練習を学習する段階（９～12歳）
Stage3．トレーニングを練習する段階（12～16歳）
Stage4．競技のトレーニング段階（16～18）
Stage5．勝利を目指したトレーニング段階（18歳以降）
Stage6．リタイア期

一貫指導について特にジュニア期の指導に関して文献検索してみたところ、ドイツハンドボール協会が重点を置いている課題は、日常の子どもたちの状況を考えた運動に関わる体力的要素が基準であることに対して、NTSが指導方針としている内容は、ハンドボールの技術的要素に関わるものがほとんどであると伺える。すなわち、「うまさ」を強調しているものであると考えられる。しかし、選手育成のための一貫指導を行うにあたって、発達段階に合わせた体力要素を養うことも必要であることがこれまでの文献検索によって明らかにされている。体格面で世界に劣る日本だからこそ、こういった発達段階に応じた体力トレーニングというものを検討する必要があると考えられる。

そこで、身長発育の生物学的パラメータの算出と成熟度の判定についてみてみると、最大発育年齢および最終身長など身長発育に関する生物学的パラメータは、PB1法によって求められる。これによって、思春期開始の指標としてのtake off（TO）時の年齢および身長、思春期で発育速度が最大になるpeak height velocity（PHV）時の年齢および身長、発育速度（年間増加量）、および思春期終了の指標である最終身長（Final）時の年齢および身長、ならびに思春期開始から終了までの身長の増加量が算出される。また、成熟度の判定については、最大発育年齢を基に早熟型、平均型、晩熟型が決定されている。これまでの文献によると、ラグビー部員を対象ではTOが9.0歳、PHVが12.3歳で平均型、バスケットではTOが9.6歳、PHVが12.8歳で平均型、サッカーではTOが10.3歳、PHVが13.7歳で晩熟傾向型であったと報告し、参加種目によっても微妙に差があることが認められていた。また、TOからPHVまでの期間はどの競技であってもほぼ3.2～3.3であったと報告している。このように生物学的パラメータと身長の発育曲線からの成熟度については個人において違いが認められることは間違いないところである。その上からも歴年齢からではなく、一個の生物学的成長度を調査し、その発育発達に応じたトレーニングを考えていく必要があると思われる。

今後、ジュニア期の指導は、NTSの指導方針に基づく指導に加えて、発達段階に応じた一般的な体力要素や、専門的体力要素を織り交ぜたトレーニング内容としていく必要があると考えられる。

第16回女子世界ジュニア選手権トレーナー報告

トレーナー　飯田 純一郎

第16回女子ジュニア世界選手権（マケドニア共和国：7／15～8／5）及び国内強化合宿（NTC：6／20～6／24）におけるトレーナー活動を報告します。

・日　程

国内強化合宿（2008年6月20日～24日：NTC）帯同日数5日間

第16回女子ジュニア世界選手権及びハンガリー合宿（2008年7月15日～8月5日：マケドニア共和国）7月15日：成田エクセルホテル集合、16日：成田出発、8月5日：成田到着、解散式。帯同日数22日間。

・天　候

現地（マケドニア）の季節は夏。現地の温度計、天気予報等で気候・気温を確認した。日中は約37℃を越える日もあったが室温・湿度はそれほど高く感じなかった。また、試合開始時刻が夜だった為あきらかに暑さでパフォーマンスが落ちたとは感じなかった。滞在期間を通して日向と日陰、昼と夜（早朝は17℃）の温度差が大きかったようだ。

・メディカルチェック

今回はNTC合宿の際、首脳陣の許可を得てトレーナーが事前に用意した「過去の外傷・障害調査書」「現在のコンディション調査書」を参考にしてトレーナーが評価した。さらに問題のある選手に関してはマケドニアでDr. 坂口が合流後にチェック、今後の治療プランを相談・作成した。

・体　重

体重計はトレーナーの私物を携行し、あらかじめ作成した「Weight Control Sheet」に毎日の練習前・後試合前・後に記入させた。記入漏れがないように必ず体重計と用紙を会場に持っていき徹底させたことで満足な成果が得られ、選手も客観的に体調を評価する指標としていたようだ。また、事前に栄養・水分摂取の予備知識を指導する事で競技前・後、大会終了時にも大幅な増減は無く、各個人で意識を持ってコントロールできたといえる。

・練習強度およびコンディション

大会期間中は練習会場の使用時間が約50分間に制限されたため運動強度は低く、意図的に強度を上げた時以外は練習による過負荷を訴える選手はいなかった。しかし、連戦・長期滞在等、競技以外の疲労を感じている選手は多く、モチベーションの波という点では難しかったようで、今後の反省点の一つに上げられる。

・食　事

国内合宿中はNTCの食堂で食事をした。メニューも豊富で食欲の落ちた選手はいなかったようだ。

ハンガリー・マケドニアでは主に宿舎での食事となり、ホテルによって多少の違いはあるものの、質・量とも極端に悪いものではなかった。しかし、慣れない味付けに戸惑い、場合によっては口にできない選手もいたようだ。相談すればある程度メニュー変更も可能な宿舎もあったが、食べられない選手は日本から持参した物である程度補えたようだった。依然、選手によっては偏食があるが前回から見ると食事に対しては口に合わなくても意識的に食事量をキープしている選手が増えたように感じられた。これは国内で行われた栄養調査・指導の成果だと思われる。特にハードな海外での試合に臨むのであれば、このように日ごろからの意識改善や所属チーム等でのさらなる食事指導を重要視して継続すべきだと感じた。

・軽　食

試合前は開始時間から逆算して2時間前に宿舎で準備してもらったバナナ等の果物類、購入できる範囲の菓子パン、ジュースなどを準備したが、会場によっては購入できる場所が無く、その際は宿舎にある果物や昼食のパンを各自が持って帰り軽食にあてた。また、事前の栄養指導時にあったアドバイスにより、持参した飴玉を試合30分ほど前にも食べるようにし、選手には好評だった。

・睡　眠

基本的には選手の自主性にまかせ毎日の消灯時間等は決めなかったが、試合前や疲れが見えているときなどは早めの消灯を指示した。起床時間から逆算すると睡眠時間は約5～7時間になると思われる。また、午睡をとる時間もあり睡眠時間としての問題はないように思われた。

・ウォーミングアップ

基本的には首脳陣からの所要時間や強度などの要望を聞き、トレーナーがウォームアップの担当をした。内容としては全体的なストレッチからステップドリル、アジリティー等までを指導した。

期間中、時間が足りない場合は宿舎でストレッチを済ませてから出発する場合もあった。感想としては、ヨーロッパの強豪国と見比べた場合に、日本選手のウォーミングアップに対する入り方は選手間や試合毎にムラがあり、意識やモチベーション

に差を感じた。

対応策としては、各カテゴリーで「全日本チームのアップ」というものをある程度固定し、国内合宿期間こその意味や重要性を認識させておくことが必要に思われる。また、これらの指導はトレーナーが行うものなのか、コーチが行うものなのか、役割分担を明確にしておくことも必要と思われる。

・ウォームダウン

合宿中はjog～ストレッチ～アイシングの流れで行った。

大会期間中は時間的余裕がなかったためストレッチ等は短時間に全員で行うか、選手各自が空きスペースや宿舎で行うように指導した。しかし徹底して行っていた選手は少なく、再度指示を出しても短い大会期間中だけでは重要性を伝えきれず悔やまれる。

アイシングに関しては、前回よりも会場や宿舎で氷の確保ができたため満足に行うことができた。

・トリートメント（治療）

今回も治療用ベットは携行せずトレーナー宿泊室ベットにて行った。

治療前にドクターに診断を依頼し、ある程度の指示を受けた後にトレーナーが行った。方法は主にマッサージ・ストレッチ・運動療法（リハビリ）・クライオセラピー・PNF・テーピング等を用いて行い、さらにレンタルでトレーナーが持ち込んだ電気治療器を使用した。治療記録は「daily conditioning treatment report」に記入しドクター・監督に提示した。現在はトレーナーが保管中である。

・トリートメント状況

- 強化合宿中（右膝前十字靭帯断1名、指の負傷3名、肘の負傷2名が外傷で発生。他は主に疲労性に分類される）
- 大会期間中（膝の捻挫1名、打撲3名、足関節捻挫2名、手首の捻挫1名、頚部捻挫1名、大腿部挫傷2名、下肢の肉離れ1名）他各部位（主に腰～下肢）の疲労
- 一日の治療人数／約7～15名

・トレーナー備品

トレーナーバック、他テープ類、医薬品、治療器具、ハンドボール協会発注によるテーピングテープ各種、アイスバック、スプレー類をトレーナーが管理した。

ドクターバックはNTCから持参しドーピングに問題のない医薬品一式をドクターが管理した。

（他に私物で持参したものは体重計、バンテージ、電気治療器）

・ドーピングチェック

事前の情報ではチェックが実施される明確な情報は無かったが、前回の帯同時に無断で風邪薬を服用した選手が居たことを反省し、合宿中のミーティングからドーピングへの意識・指導を行った。

薬の服用に関しては必ずドクターが処方したもののみを服用させ、ドクターが不在時にはトレーナーが相談し指示を受けたものを服用させた。それでも持参して来た選手がいたため、今後も徹底管理とドーピングの教育・薬品服用の指導を継続して行い選手の自覚を強くするようにしなければならないと感じた。また、サプリメントに関しては事務局の指示として今大会中は一切使用を自粛した。

・暑さ対策（飲料水とアイス）

マケドニアは前回の帯同でかなり暑かった印象があったため熱中症と共に今回もっとも気をつけた点の一つであった。

ある程度は現地ガイドの情報や予報で確認できたが、計測データを記入し、チーム全体として把握することはできなかった。飲料水に関しては大会中、十分量のミネラルウォーターが支給された。ドリンクは日本からSANZALSの粉末ドリンク持参し1リットルのスクイズボトル10数本を使用して選手・トレーナー・ドクターが準備した。大会中も水分補給や熱中症を指導する機会があり満足な補給状況だった。

前回もっとも苦労した点として一つとして氷の確保が挙げられたが、今回は試合会場や宿舎の協力で十分量の氷が確保できた。しかし基本的には商店などにも売っていないことから、出発前に確認できればしていきたいと思う。

・最後に

今回の携同で強く感じた点は、事前指導の重要性であった。選抜チームでさらに短い大会期間中では指導しても伝わりきらず、先述したようにセルフトリートメントの重要性やウォームアップ・ダウンを徹底させる事ができずに終わった。

それに比べ、合宿中に行った栄養指導、水分摂取においては選手に十分な自覚が見られた。このことから医・科学スタッフとしても各カテゴリーでの共通認識の上で早期からの一貫した指導を行い、「全日本チームのマニュアル」等を作成すればスタッフが変わっても円滑に業務が進められると思う。今後は医・科学スタッフの会議等、定期的に情報を共有できる機会を増設していただけるように希望したい。

月並みながら弊職としても国際大会に帯同させて頂く事で、今回も違ったことを学び、毎回違った手ごたえと課題を持ち帰り、改善していくことが出来ると感じています。このような貴重な経験の場を与えていただいたことを糧にし、今後も微力ながらハンドボール界に尽力できればと思っております。

最後になりましたが業務環境を整えてくださった事務局および協会の方々、強化委員・医科学委員会の方々、召集期間を通してご理解とご協力いただいた荘林団長を始め東江監督・市来コーチ、診断と御指示を頂いた坂口先生他全ての関係者の皆様に深く感謝を申し上げ、またの機会に繋がることを切望しながら報告といたします。

スコアールーム ①

第21回全国小学生ハンドボール大会

開催期日：2008年8月1日（金）～3日（日）
会　　場：京都府・京田辺市中央体育館ほか

【男　子】

▼予選Aブロック

日岡ハンドボールスポ少　32（13－3、19－2）5　鈴鹿ハンドボールスクール
日岡ハンドボールスポ少　24（10－3、14－4）7　和田山ハンドボールクラブ
鈴鹿ハンドボールスクール　19（7－10、12－7）17　和田山ハンドボールクラブ

【順位】①日岡ハンドボールスポーツ少年団（大分県）②鈴鹿ハンドボールスクール（三重県）③和田山ハンドボールクラブ（兵庫県）

▼予選Bブロック

桃園小学校ハンドボールクラブ　14（7－6、7－7）13　能美ジュニアハンドボールクラブ
三郷ハンドボールクラブ　19（12－4、7－2）6　愛媛ジュニアーズ
能美ジュニアハンドボールクラブ　19（12－3、7－3）6　愛媛ジュニアーズ
三郷ハンドボールクラブ　17（8－1、9－4）5　桃園小学校ハンドボールクラブ

【順位】①三郷ハンドボールクラブ（埼玉県）②桃園小学校ハンドボールクラブ（京都府）③能美ジュニアハンドボールクラブ（石川県）④愛媛ジュニアーズ（愛媛県）

▼予選Cブロック

三松小ハンドボールスポ少　26（9－7、17－6）13　スポーツ少年団守谷クラブ
塩江ハンドボールスポ少　22（12－2、10－4）6　和歌山ハンドボール教室
スポーツ少年団守谷クラブ　13（7－4、6－3）7　和歌山ハンドボール教室
三松小ハンドボールスポ少　15（8－5、7－6）11　塩江ハンドボールスポ少

【順位】①三松小ハンドボールスポーツ少年団（宮崎県）②塩江ハンドボールスポーツ少年団（香川県）③スポーツ少年団守谷クラブ（茨城県）④和歌山ハンドボール教室（和歌山県）

▼予選Dブロック

安居ブルーサンダー　28（16－0、12－8）8　安芸高田ハンドボールクラブ
豊福小学校男子ハンドボール部　31（12－3、19－2）5　大浜キッズ
大浜キッズ　20（9－5、11－6）11　安芸高田ハンドボールクラブ
安居ブルーサンダー　20（10－6、10－8）14　豊福小学校男子ハンドボール部

【順位】①安居ブルーサンダースポーツ少年団（福井県）②宇城市立豊福小学校男子ハンドボール部（熊本県）③大浜キッズ（大阪府）④安芸高田ハンドボールクラブ（広島県）

▼予選Eブロック

小島小ハンドボール部　15（4－7、11－7）14　LHC静岡
小島小ハンドボール部　19（11－5、8－11）16　草内小学校ハンドボールチーム
LHC静岡　17（6－6、11－11）17　草内小学校ハンドボールチーム

【順位】①小島小ハンドボール部（長崎県）②LHC静岡（静岡県）③草内小学校ハンドボールチーム（開催地）

▼予選Fブロック

平針南小学校　15（8－5、7－6）11　IDBスポーツクラブ
東久留米ハンドボールクラブ　14（6－3、8－8）11　高盛ハンドボールクラブ
高盛ハンドボールクラブ　15（7－5、8－7）12　IDBスポーツクラブ
平針南小学校　17（8－4、9－7）11　東久留米ハンドボールクラブ

【順位】①平針南小学校（愛知県）②東久留米ハンドボールクラブ（東京都）③高盛ハンドボールクラブ（北海道）④IDBスポーツクラブ（山口県）

▼予選Gブロック

総社クラブジュニア　20（10－3、10－7）10　富岡イーグルス
岐阜MHC　19（9－4、10－8）12　一つ輪ハンドボールクラブ
富岡イーグルス　16（9－8、7－7）15　一つ輪ハンドボールクラブ
総社クラブジュニア　10（5－4、5－3）7　岐阜MHC

【順位】①総社クラブジュニア（岡山県）②岐阜MHC（岐阜県）③富岡イーグルス（群馬県）④一つ輪ハンドボールクラブ（岐阜県）

▼予選Hブロック

窪スポーツ少年団　20（9－7、11－10）17　神森小学校ハンドボールクラブ
神森小学校ハンドボールクラブ　18（8－9、10－6）15　山梨市ハンドボールスポ少
窪スポーツ少年団　25（14－5、11－5）10　山梨市ハンドボールスポ少

【順位】①窪スポーツ少年団ハンドボール部（富山県）②神森小学校ハンドボールクラブ（沖縄県）③山梨市ハンドボールスポーツ少年団（山梨県）

▼決勝トーナメント1回戦

日岡ハンドボールスポ少　21（11－6、10－7）13　三郷ハンドボールクラブ
安居ブルーサンダー　26（10－6、16－8）14　三松小ハンドボールスポ少
平針南小学校　21（11－3、10－2）5　小島小ハンドボール部
窪スポーツ少年団　16（6－5、10－10）15　総社クラブジュニア

▼準決勝

安居ブルーサンダー　18（7－6、11－7）13　日岡ハンドボールスポ少
窪スポーツ少年団　15（9－4、6－7）11　平針南小学校

▼3位決定戦

日岡ハンドボールスポ少　27（12－5、15－5）10　平針南小学校

▼決勝戦

安居ブルーサンダース　18（9－8、9－8）16　窪スポーツ少年団

【女　子】

▼予選aブロック

仏生寺スポーツ少年団　14（5－3、9－9）12　三郷ハンドボールクラブ
仏生寺スポーツ少年団　25（15－1、10－0）1　真弓クラブ
三郷ハンドボールクラブ　23（9－2、14－3）5　真弓クラブ

【順位】①仏生寺スポーツ少年団（富山県）②三郷ハンドボールクラブ（埼玉県）③真弓クラブ（奈良県）

▼予選bブロック

明野西ハンドボールクラブ　36（18－1、18－2）3　潮ハンドボールクラブ
富岡ラビッツ　16（9－6、7－6）12　大浜キッズ
大浜キッズ　12（9－2、3－7）9　潮ハンドボールクラブ
明野西ハンドボールクラブ　17（7－3、10－6）9　富岡ラビッツ

【順位】①明野西ハンドボールクラブ（大分県）②富岡ラビッツ（群馬県）③大浜キッズ（大阪府）④潮ハンドボールクラブ（北海道）

▼予選cブロック

仲西小ハンドボールクラブ　20（9－6、11－11）17　安居ブルーサンダー
仲西小ハンドボールクラブ　20（9－5、11－8）13　総社クラブジュニア
安居ブルーサンダー　17（7－9、10－7）16　総社クラブジュニア

【順位】①仲西小ハンドボールクラブ（沖縄県）②安居ブルーサンダースポーツ少年団（福井県）③総社クラブジュニア（岡山県）

▼予選dブロック

当尾小学校　13（7－4、6－6）10　松井ヶ丘小学校ハンドボール部
松井ヶ丘小学校ハンドボール部　22（11－2、11－3）5　安芸高田ハンドボールクラブ
当尾小学校　20（10－1、10－6）7　安芸高田ハンドボールクラブ

【順位】①当尾小学校（熊本県）②松井ヶ丘小学校ハンドボール部（開催地）③安芸高田ハンドボールクラブ（広島県）

▼予選eブロック

平針南小学校　15（8－2、7－0）2　川西コジマーズ
平針南小学校　13（8－8、5－4）12　東久留米ハンドボールクラブ
東久留米ハンドボールクラブ　16（10－3、6－4）7　川西コジマーズ

【順位】①平針南小学校（愛知県）②東久留米ハンドボールクラブ（東京都）③川西コジマーズ（兵庫県）

▼予選fブロック

笹川ハンドボールクラブ　19（9－2、10－2）4　大住小学校ハンドボールクラブ
延岡東ハンドボールクラブ　20（9－0、11－2）2　大住小学校ハンドボールクラブ
延岡東ハンドボールクラブ　13（3－4、10－4）8　笹川ハンドボールクラブ

【順位】①延岡東ハンドボールクラブ（宮崎県）②笹川ハンドボールクラブ（三重県）③大住小学校ハンドボールクラブ（京都府）

▼予選gブロック

塩山ハンドボールスポーツ少年団　13（5－5、8－5）10　羽島ハンドボールクラブ
羽島ハンドボールクラブ　15（8－2、7－4）6　和歌山ハンドボール教室
塩山ハンドボールスポーツ少年団　21（11－3、10－7）10　和歌山ハンドボール教室

【順位】①塩山ハンドボールスポーツ少年団（山梨県）②羽島ハンドボールクラブ（岐阜県）③和歌山ハンドボール教室（和歌山県）

▼予選hブロック

LITTLE GUTS　14（4－6、10－6）12　スポーツ少年団守谷クラブ
スポーツ少年団守谷クラブ　25（14－1、11－0）1　香川町ハンドボールスポーツ少年団
LITTLE GUTS　15（10－1、5－1）2　香川町ハンドボールスポーツ少年団

【順位】①LITTLE　GUTS（山口県）②スポーツ少年団守谷クラブ（茨城県）③香川町ハンドボールスポーツ少年団オリーブちゃん（香川県）

▼決勝トーナメント1回戦

仏生寺スポーツ少年団　14（6－5、8－6）11　明野西ハンドボールクラブ
当尾小学校　12（7－6、5－5）11　仲西小ハンドボールクラブ
平針南小学校　12（7－7、5－4）11　延岡東ハンドボールクラブ
塩山ハンドボールスポーツ少年団　15（4－2、11－6）8　LITTLE GUTS

▼準決勝

仏生寺スポーツ少年団　16（8－7、8－6）13　当尾小学校
平針南小学校　11（6－5、5－2）7　塩山ハンドボールスポーツ少年団

▼3位決定戦

当尾小学校　13（6－6、7－3）9　塩山ハンドボールスポーツ少年団

▼決勝戦

仏生寺スポーツ少年団　16（8－5、8－5）10　平針南小学校

スコアールーム②　第13回女子ジャパンオープン

開催期日：2008年8月8日（金）～10日（日）
会　場：新潟県・上越市、リージョンプラザ上越、柿崎総合体育館

▼1回戦

香川銀行TH　29（14－4、15－4）8　HC高山
レキオクラブ　35（16－7、19－8）15　新潟TC
かながわガビアーノ　23（13－14、10－8）22　大農OG
京都クラブ　24（12－13、12－10）23　小松クラブ
コスモスビッキーズ　27（11－10、16－11）21　GET"S
MMC　23（16－7、7－13）20　白梅三英美会
シャトレーゼ　39（20－9、19－6）15　北海道倶楽部
HC岡山　31（12－12、19－8）20　J・J・GANG

▼2回戦

香川銀行TH　31（18－8、13－6）14　レキオクラブ
かながわガビアーノ　22（9－14、13－7）21　京都クラブ
コスモスビッキーズ　22（11－10、11－9）19　MMC
HC岡山　25（13－8、12－13）21　シャトレーゼ

▼準決勝

香川銀行TH　37（17－5、20－4）9　かながわガビアーノ
コスモスビッキーズ　26（12－12、14－10）22　HC岡山

▼3位決定戦

HC岡山　28（14－12、14－8）20　かながわガビアーノ

▼決　勝

香川銀行TH　34（19－4、15－6）10　コスモスビッキーズ

スコアールーム③　第13回男子ジャパンオープン

開催期日：2008年8月9日（土）～12日（火）
会　場：富山県・富山市総合体育館ほか

▼1回戦

ホンダ熊本（熊本県）　36（16－13、20－14）27　きときとクラブ（富山県）
香川クラブ（香川県）　47（20－7、27－9）16　紫嵐会（宮城県）
BIC（沖縄県）　31（15－8、16－12）20　埼玉教員クラブ（埼玉県）
HC神戸（兵庫県）　28（12－5、16－12）17　HC大垣（岐阜県）
三重ホンダクラブ（三重県）　35（18－10、17－18）28　日新製鋼（広島県）
HC大分（大分県）　39（16－18、18－16）36　小松クラブ（石川県）
（4－1　延長　1－1）
HC奈良（奈良県）　29（16－12、13－15）27　セントラル自動車（神奈川県）
山形新球会ハンドボールクラブ（山形県）　25（10－7、15－12）19　つくば学園ハンドボールクラブ（茨城県）
HC岡山（岡山県）　32（19－14、13－16）30　チーム群馬（群馬県）
甲府クラブ（山梨県）　33（13－13、20－12）25　岩手教員ハンドボールクラブ（岩手県）
ボンチフェローズ（大阪府）　36（15－13、21－16）29　MAX（長崎県）
氷見クラブ（富山県）　33（16－10、17－10）20　HC愛媛（愛媛県）
FOG（千葉県）　34（14－12、15－17）33　愛知教員（愛知県）
（2－1　延長　0－1）（3　7mTC　2）
沖縄クラブ（沖縄県）　25（12－9、13－14）23　徳山クラブ（山口県）
洛北クラブ（京都府）　36（16－12、20－18）30　エルムクラブ（北海道）
HC秋田（秋田県）　40（19－13、21－12）25　HC新潟（新潟県）

▼2回戦

ホンダ熊本　32（15－12、17－15）27　香川クラブ
BIC　37（16－9、21－11）20　HC神戸
三重ホンダクラブ　30（15－14、15－14）28　HC大分
HC奈良　36（14－13、22－14）27　山形新球会ハンドボールクラブ
HC岡山　32（14－11、18－11）22　甲府クラブ
氷見クラブ　33（14－10、19－17）27　ボンチフェローズ
FOG　30（14－9、16－18）27　沖縄クラブ
洛北クラブ　35（17－14、18－12）26　HC秋田

▼準々決勝

ホンダ熊本　26（13－11、13－11）22　BIC
三重ホンダクラブ　31（16－4、15－11）15　HC奈良
氷見クラブ　33（13－14、13－12）31　HC岡山
（3－3　延長　4－2）
FOG　27（9－10、18－13）23　洛北クラブ

▼準決勝

三重ホンダクラブ　31（14－9、17－18）27　ホンダ熊本
FOG　32（15－8、17－18）26　氷見クラブ

▼3位決定戦

氷見クラブ　30（16－13、14－15）28　ホンダ熊本

▼決　勝

三重ホンダクラブ　29（18－3、11－16）19　FOG

スコアールーム ④

第37回全国中学校大会

開催期日：2008年8月18日（月）～20日（水）
会　　場：福井県・福井市福井県営体育館ほか

【男子】

▼1回戦

はとり（愛知）	24（9－10、15－9）19	大住（京都）
矢巾（岩手）	28（14－11、14－11）22	菰野（三重）
玉名（熊本）	19（8－6、11－11）17	倉敷東（岡山）
大体大附（大阪）	28（13－10、9－12）27 （3－1　延長　3－4）	けやき台（茨城）

▼2回戦

東久留米西（東京）	29（14－4、15－14）18	はとり（愛知）
玉名（熊本）	26（7－13、19－11）24	西條（富山）
安居（福井）	27（11－12、16－12）24	土佐（高知）
明倫（福井）	31（18－10、13－9）19	月寒（北海道）
汐路（愛知）	40（21－10、19－8）18	三郷北（埼玉）
大体大附（大阪）	25（10－13、15－11）24	三松（宮崎）
仲西（沖縄）	24（9－11、15－11）22	豊中十五（大阪）
岐陽（山口）	24（11－11、13－12）23	矢巾（岩手）

▼3回戦

明倫	41（19－11、22－19）30	東久留米西
汐路	28（14－7、14－9）16	玉名
大体大附	34（15－17、19－10）27	安居
岐陽	25（9－11、16－12）23	仲西

▼準決勝

明倫	26（13－10、13－10）20	岐陽
汐路	33（22－3、11－13）16	大体大附

▼決勝

明倫	26（14－14、12－10）24	汐路

【女子】

▼1回戦

吉川南（埼玉）	21（10－10、11－9）19	朝明（三重）
大蔵（兵庫）	17（8－4、9－8）12	香川第一（香川）
花園（千葉）	19（9－7、10－10）17	東陽（大分）
小松南部（石川）	24（13－5、11－10）15	汐路（愛知）

▼2回戦

培良（京都）	35（17－4、18－5）9	神森（沖縄）
安居（福井）	20（9－6、11－8）14	本通（北海道）
光陽（福井）	29（17－4、12－8）12	総社西（岡山）
岩国（山口）	28（16－5、12－10）15	大住（京都）
矢巾（岩手）	27（13－17、14－8）25	吉川南（埼玉）
三郷北（埼玉）	31（16－15、15－14）29	大蔵（兵庫）
東陵（愛知）	17（7－9、10－6）15	花園（千葉）
小松南部（石川）	23（11－5、12－8）13	玉名（熊本）

▼3回戦

培良	30（22－7、8－9）16	矢巾
三郷北	23（9－13、14－8）21	安居
光陽	21（10－6、11－7）13	東陵
岩国	30（14－11、16－8）19	小松南部

▼準決勝

光陽	22（10－9、12－7）16	培良
岩国	26（13－10、3－10）20	三郷北

▼決勝

岩国	25（11－13、14－8）21	光陽

スコアールーム ⑤

第16回全日本ハンドボールマスターズ大会

開催期日：2008年8月22日（金）～24日（日）
会　　場：愛知県・豊田市総合体育館ほか

【交流型】

〈男子〉

三景	21－6	市工芸クラブ
愛知コモンズ	13－8	2008
ＨＣ名古屋ＡＴＦ交	12－11	ＬＢＣアルバトロス
愛豊Ｚ	15－11	東山クラブ
中京オールスターズ	20－10	小金クラブ
岐阜ＭＨＣ（Ｂ）	15－4	横浜平沼マスターズ
オールド愛媛	17－15	46Ｇ会
鉄球会	20－11	豊橋マスターズ
櫻ドール・秋川クラブ	12－8	神楽坂シニア
小松キャステックス	15－6	横浜平沼マスターズ
オークスクラブ	13－3	福井マスターズ
兵庫選抜	21－12	小金クラブ
蒲郡クラブ	15－10	広尾クラブ
岐阜ＭＨＣ（Ａ）	18－12	東京クラブ連盟
海自桜錨会	14－13	葵クラブＡ
岐阜ＭＨＣ（Ｂ）	18－13	静岡御殿場クラブ
兵庫選抜	23－9	葵クラブＢ
オークスクラブ	14－12	葵クラブＢ
オールド愛媛	19－14	市工芸クラブ
46Ｇ会	16－12	広尾クラブ
東京クラブ連盟	18－13	豊橋マスターズ
葵クラブＡ	15－9	ＬＢＣアルバトロス
小松キャステックス	14－10	愛豊Ｚ
三景	14－8	蒲郡クラブ
愛知コモンズ	13－11	鉄球会
2008	8－7	岐阜ＭＨＣ（Ａ）
神楽坂シニア	12－6	ＨＣ名古屋ＡＴＦ交
海自桜錨会	12－8	櫻ドール・秋川クラブ
静岡御殿場クラブ	15－7	東山クラブ
中京オールスターズ	22－10	福井マスターズ
広尾クラブ	19－5	市工芸クラブ
愛知コモンズ	18－14	東京クラブ連盟
ＨＣ名古屋ＡＴＦ交	12－12	海自桜錨会
愛豊Ｚ	12－10	岐阜ＭＨＣ（Ｂ）
中京オールスターズ	19－10	葵クラブＢ
三景	13－13	46Ｇ会
豊橋マスターズ	11－8	2008
ＬＢＣアルバトロス	10－7	櫻ドール・秋川クラブ
東山クラブ	7－6	横浜平沼マスターズ
オークスクラブ	11－10	小金クラブ
蒲郡クラブ	14－9	オールド愛媛
鉄球会	17－9	岐阜ＭＨＣ（Ａ）
葵クラブＡ	8－7	神楽坂シニア
小松キャステックス	11－8	静岡御殿場クラブ
兵庫選抜	13－8	福井マスターズ

〈女　子〉

HC名古屋中部ドリームズ 10－7 BABAR'S
甲斐クラブ 10－1 ムラッキーズ
武蔵野クラブ 15－8 瀬戸内レディース
ハミングバード 17－8 モッピークラブ
福井シニアレディース 4－3 チーム荒川A
スマイルGifu 11－6 チーム荒川B
武蔵野クラブ 21－8 HC名古屋中部ドリームズ
瀬戸内レディース 11－9 福井シニアレディース
甲斐クラブ 10－2 チーム荒川B
モッピークラブ 16－4 ムラッキーズ
ハミングバード 17－11 スマイルGifu
武蔵野クラブ 9－6 チーム荒川A
モッピークラブ 7－6 チーム荒川B
BABAR'S 13－5 瀬戸内レディース
甲斐クラブ 14－12 ハミングバード
福井シニアレディース 9－5 HC名古屋中部ドリームズ
スマイルGifu 16－4 ムラッキーズ
BABAR'S 12－6 チーム荒川A

【順位型】

〈男　子〉

▼1回戦

徳山クラブ 10－7 HC名古屋ATF順
コザクラブ 9－8 AZZURRO
オールドフェイス 21－10 海自桜錨会
待兼シニア 12－11 IDBスポーツクラブ
GG'S 18－5 生駒オークス
WAKUNAGA 19－11 神楽坂フェニックス

▼2回戦

NISSIN 23－6 徳山クラブ
下松クラブアダルツ 19－13 コザクラブ
オールドフェイス 14－7 待兼シニア
WAKUNAGA 17－11 GG'S

▼敗者戦

AZZURRO 15－8 HC名古屋ATF順
海自桜錨会 14－7 IDBスポーツクラブ
生駒オークス 22－12 神楽坂フェニックス
待兼シニア 7－5 徳山クラブ
コザクラブ 18－12 GG'S
生駒オークス 15－8 HC名古屋ATF順
神楽坂フェニックス 18－10 海自桜錨会
IDBスポーツクラブ 13－12 AZZURRO
GG'S 16－7 徳山クラブ
コザクラブ 16－8 待兼シニア

▼準決勝

NISSIN 15－8 オールドフェイス
WAKUNAGA 15－14 下松クラブアダルツ

▼3位決定戦

オールドフェイス 15－13 下松クラブアダルツ

▼決　勝

WAKUNAGA 14－9 NISSIN

〈女　子〉

▼予選赤組

風見鶏ファミリー 9－7 琵琶湖Lakers
小松クラブ 23－9 Fenice
風見鶏ファミリー 14－12 Fenice
小松クラブ 16－9 琵琶湖Lakers
風見鶏ファミリー 11－7 小松クラブ
琵琶湖Lakers 11－4 Fenice

▼予選白組

スズッキーズ 16－12 マミーズ
スズッキーズ 13－10 徳山クラブ（女）
徳山クラブ（女） 13－10 マミーズ

▼5・6位決定戦

琵琶湖Lakers 13－11 マミーズ

▼3・4位決定戦

小松クラブ 13－10 徳山クラブ（女）

▼優勝決定戦

風見鶏ファミリー 12－10 スズッキーズ

【11人制】

▼1回戦

HC名古屋中部ドリームズ･ATF 8－2 LBCアルバトロス
神楽坂フェニックス 9－4 葵クラブ

▼準決勝

HC名古屋中部ドリームズ･ATF 7－4 東京柿の木坂クラブ
神楽坂フェニックス 5－4 HC名古屋ATF

▼5・6位決定戦

葵クラブ 5－4 LBCアルバトロス

▼3・4位決定戦

HC名古屋ATF 5－4 東京柿の木坂クラブ

▼優勝決定戦

神楽坂フェニックス 9－6 HC名古屋中部ドリームズ･ATF

スコアールーム⑥　第35回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会

開催期日：2008年8月23日（土）～24日（日）
会　　場：北海道釧路市・釧路町総合体育館ほか

▼予選リーグ

■第1ブロック

八代高専 28（11－9、17－11）20 米子高専
八代高専 42（21－6、21－3）9 釧路高専
米子高専 49（22－4、27－2）6 釧路高専

■第2ブロック

函館高専 35（18－7、17－13）20 高知高専
函館高専 39（20－12、19－8）20 長岡高専
高知高専 26（15－9、11－11）20 長岡高専

■第3ブロック

宇部高専 23（12－4、11－12）16 明石高専
宇部高専 27（13－11、14－8）19 一関高専
明石高専 24（15－8、9－4）12 一関高専

■第4ブロック

北九州高専 20（10－7、10－10）17 豊田高専
北九州高専 22（12－8、10－10）18 石川高専
豊田高専 17（7－8、10－9）17 石川高専

▼準決勝

函館高専 29（9－12、12－9）28 八代高専
（1－1　延長　3－3）（4　7mTC　3）
北九州高専 22（8－10、14－10）20 宇部高専

▼決　勝

函館高専 25（13－10、12－10）20 北九州高専

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」9月入会・継続会員

【福　島】舎利弗　学　【茨　城】中馬　睦子　【埼　玉】田中　孝、南木　香乃、石井　常子
【千　葉】川越　三永実　【東　京】平賀　とみ子　【愛　知】田中　基明、山本　淳子、熊田　祐子
松井　和也、松井　拓也、西　みどり、小林　勇、山本　智子、岡田　洋典、牧野　千別　【大　阪】
宇佐見　英治、塩川　正十郎、村井　俊雄　【島　根】森江　和吉　【広　島】藤川　道子、青戸　克好
【福　岡】安河内　正路【熊　本】中川　光明

【11月の行事予定】

【会　議】
11月８日(土)　理事会（東京）
【大　会】
11月20日(木)～24日(月)（山口県・周南市）
高松宮記念杯男子51回女子44回全日本学生選手権

西窪氏が強化本部長に就任

９月の(財)日本ハンドボール協会理事会において、西窪勝広氏が協会の強化本部長に就任しました。

HANDBALL CONTENTS Nov.

（登録チームの購読料は登録料に含む）

JAPAN、名品の系譜。

機能だけではない、風格のようなものがなければならぬ。
先端のテクノロジーでさらにパワーアップした機能を備えて
新しくなったスカイハンドJAPANシリーズ。
グリップ力に優れた国産ラバー採用のJAPANラバーソールと、
しなやかで通気性のあるエクセーヌを使ったカラーアッパーに
ソール前足部のベンチレーションホール等々。
インドアを制するミドルカットとローカットが揃った。

足入れ感を高めてクラシカルな名品復刻モデル。

スカイハンド® JAPAN-MT
THH514 ￥16,800(本体￥16,000)
● カラー：5093 ネイビーブルー×シルバー
● サイズ：23.0～29.0cm

名品スカイハンドSPのフォルムを受け継いだローカットモデル。

スカイハンド® JAPAN-S
THH515 ￥15,750(本体￥15,000)
● カラー：2300 レッド×パールホワイト
5093 ネイビーブルー×シルバー
● サイズ：23.0～29.0cm

株式会社アシックス

アシックスシューズのストライプデザインはアシックスの商標であり、世界の多くの国で登録された商標です。 表示価格は消費税込みのメーカー希望小売価格です。( )内は消費税抜きの本体価格です。http://www.asics.co.jp 商品についてのお問い合わせは「アシックスお客様相談室」までどうぞ。03-3624-1814、06-6385-1155

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四九五号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成二十年十月二十六日印刷 平成二十年十一月一日発行

東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表 〇三―三四八一―二三六一
〇〇一二〇―七―一〇二九三

編集兼発行人 川上憲太

定価 年間三三〇〇円